

築館町文化財調査報告書第2集

# 伊治城跡

—昭和63年度発掘調査概報—



平成元年3月

築館町教育委員会

築館町文化財調査報告書第2集

# 伊治城跡

—昭和63年度発堀調査概報—

平成元年3月

築館町教育委員会

## 序　　言

今我々の社会は、高度情報社会へと大きく変わりつつあります。人類がこの地球上に出現してから約300万年と推定されておりますが、社会が形成された頃の「狩猟社会」から「農業社会」・「工業社会」そして「情報社会」へと社会は大きく変化しております。我々の文化が大きく変化したのは約2千年間と考えてよろしいと思いますが、その期間が農業社会であり、工業社会であります。伊治城の年代は農業社会の初期に属し、また日本の歴史を大きく震撼させた城であることは御承知のとおりであります。

文献に残る宮城県北唯一の城が伊治城であり、この研究の歴史は大分古くからあります、いずれも決め手を欠いておりました。

宮城県多賀城跡調査研究所による調査によって城の外郭を区切る大堀、城内の堅穴住居跡から「城厨」の墨書き土器や円面硯・漆紙などが発見され、城を証明できる遺物が出土し、大きく前進いたしました。

本町による調査が始まられて第2年目を迎えました。漸く建物跡にせまる区画溝や瓦片などが出土し、大きな希望のもたれる段階となっていました。

調査に当っては宮城県教育庁文化財保護課、宮城県多賀城跡調査研究所、東北歴史資料館からの御指導・御援助によることがまことに大きいものがあり、心から感謝申し上げます。その他地元の方々の調査に対する積極的御協力に心から御礼を申し下げると共に調査第3年目に当る平成元年度の成果を期待しながら、報告書を送る挨拶といたします。

平成元年3月

築館町教育委員会教育長

千葉與一郎

## 例　　言

1. 本書は、宮城県柴原郡築館町に所在する伊治城跡の昭和63年度発掘調査概報である。
2. 本書には、下記の調査成績を収録した。

| 調査次数  | 調査日程              | 調査面積                 | 内 容          |
|-------|-------------------|----------------------|--------------|
| 第5次調査 | 昭和63年1月18日～2月9日   | 1,080 m <sup>2</sup> | 農道整備事業に伴う調査  |
| 第7次調査 | 昭和63年7月1日～10月30日  | 1,500 m <sup>2</sup> | 国庫補助事業       |
| 第8次調査 | 昭和63年11月4日～11月24日 | 1,420 m <sup>2</sup> | 水道管理設工事に伴う調査 |
| 第9次調査 | 平成元年2月6日～2月12日    | 504 m <sup>2</sup>   | 農道整備事業に伴う調査  |

3. 図版の作成ならびに本書の執筆・編集は、築館町教育委員会社会教育課文化財保護係主事吉原祥夫が、同課主任鈴木正志の協力を得て行った。
4. 遺物整理作業には、築館町ジュニアリーダー諸氏、ならびに臨時職員若生志津子の協力を得た。
5. 地区割は、富野公民館前の任意の点を発掘基準点として定め、この点を原点(0,0)とする直角座標を組んで割り出している。発掘基準線の南北軸は、N 2°-08' - 08" W (Nは第X系座標北)である。
6. 第4図に掲載した地形図は、建設省国土地理院発行の1/25,000のものを複製して使用した。
7. 遺構略号は次のとおりで、各遺構ごとに番号を付した。

SA : 柱列跡 SB : 建物跡 SE : 井戸 SX : その他の遺構

SI : 壘穴住居跡 SK : 土塙 SD : 潟

8. 遺物略号は次のとおりで、各遺物ごとに番号を付した。

A : 繩文土器 B : 弥生土器 C : 上師器(ロクロ使用) D : 土師器(ロクロ不使用)

E : 須恵器 F : 丸瓦・軒丸瓦 G : 平瓦・軒平瓦 K : 石製品

N : 金属製品 S : 破

9. 土層の色調は、『新版標準土色帳』(小山・竹原:1970)の基準にしたがって註記した。
10. 出土遺物は、可能な限り実測図化して資料化につとめた。また、これから外れたものについては、各遺構ごとに破片集計表に収録した。
11. 図版の縮尺は、遺物を1/3、遺構を原則として1/60に統一した。
12. 調査成績の一部については、既に報道機関や第15回古代城柵官衙遺跡検討会で公表しているが、本書の内容はこれらに優先するものである。
13. 調査によって得られた出土遺物、ならびに調査の記録・図面類は、築館町教育委員会で一括して保管している。

## 調査要項

1. 遺跡名 伊治城跡（宮城県遺跡登載番号：41007）
2. 所在地 宮城県栗原郡築館町字城生野
3. 調査主体 築館町教育委員会
4. 調査担当 築館町教育委員会 教育長 千葉與一郎
5. 調査員 築館町教育委員会社会教育課文化財保護係 主事 菅原 祥夫
6. 調査協力者 千葉けさよ、鈴木むね子、千葉伝之丞
7. 調査参加者 千葉 寿見、千葉 力雄、千葉伝之丞、千葉 春治、鈴木むね子、鈴木しもよ  
高橋 佐一、加藤 すえ、菅原 光男、菅原 永松（地元作業員）、  
三塚 祐一、狩野 善徳、佐藤 勝行、佐藤 忠美、菅原 信行（築館町役場  
職員）、白鳥 保守、佐藤 明夫（白鳥測量設計事務所）
8. 調査・報告書作成指導・協力 宮城県教育庁文化財保護課、宮城県多賀城跡調査研究所、  
東北歴史資料館  
進藤 秋輝、真山 哲、阿部 博志、柳沢 和明（宮城県教育庁文化財保護課）、桑原  
滋郎、白鳥 良一、高野 芳宏、丹羽 茂、後藤 秀一、村田 晃一（宮城県多賀城跡調  
査研究所）、加藤 道男（東北歴史資料館）、今泉 隆雄、古川 淳一（東北大学国史学研  
究室）、伊藤 博幸（水沢市教育委員会）、似内 啓（盛岡市教育委員会）、阿部 正光  
(瀬峰町教育委員会)、佐藤 信行(日本考古学協会員)、金野 正（宮城県文化財保護  
地区指導員）

## 目次

|                                |                                |    |
|--------------------------------|--------------------------------|----|
| 序　　言                           | 第7次調査.....                     | 23 |
| 例　　言                           | 第8次調査.....                     | 48 |
| I　調査にいたる経過.....                | I　調査にいたる経過.....                | 1  |
| II　遺跡の位置と現状.....               | II　遺跡の位置と現状.....               | 2  |
| III　周辺の遺跡.....                 | III　周辺の遺跡.....                 | 3  |
| IV　伊治城および<br>栗原郡に関する古代史年表..... | IV　伊治城および<br>栗原郡に関する古代史年表..... | 8  |
| V　発見された遺構と遺物.....              | V　発見された遺構と遺物.....              | 14 |
| 第5次調査.....                     | 第5次調査.....                     | 14 |
| VI　考　察                         | VI　考　察                         | 49 |
| VII　ま　と　め                      | VII　ま　と　め                      | 50 |
| 参考・引用文献.....                   | 参考・引用文献.....                   | 56 |
| 写真図版.....                      | 写真図版.....                      | 57 |
| 付編—鹿島坂改修以前の<br>伊治城跡西辺外郭の状況—    | 付編—鹿島坂改修以前の<br>伊治城跡西辺外郭の状況—    | 58 |
|                                |                                | 65 |

## I 調査にいたる経過

伊治城は、宮城県北の内陸部にある栗原地方を統治するために、神護景雲元年（767）に設置された城柵である。文献上には、この年から延暦16年（796）までの約30年の間に、この城柵に関する記録が6件登場する（IV参照）。このなかでも伊治皆麻呂が、この城柵を舞台として宝龜11年（780）に起こした反乱は、古代東北史上あまりにも有名な事件である。

この伊治城跡の所在地については、古くから多くの議論がなされてきた。そのなかで、本遺跡はその最も有力な擬定地とされ、主に文献史学の立場から様々な検討が加えられた。こういったなかで実施された宮城県多賀城跡調査研究所によるはじめての本格的な発掘調査は、本遺跡の年代観や構造を知る上で、多大な成果をあげている（宮城県多賀城跡調査研究所：1978～1980.3）。具体的には、遺跡北辺の外郭施設は、土塁と大溝によって構成されていること、また遺跡内部には、8世紀末を中心とする時期に多数の堅穴住居跡が営まれたことが明らかとなった。さらに注目すべきものとして、「城厨」と墨書きされた土器が出上り、この付近に城に係る厨の存在が想定された。

こういったことから現在では、本遺跡が伊治城跡であることはほぼ確実であるとみられている。しかしながら、城柵の主要な機能を担った政庁跡や尖突官衙ブロックが未検出であること、遺跡の正確な範囲がまだ確定していないなど、今後に残された問題も数多い。

ところが近年、本遺跡の所在する城生野地区一帯には、開発の波が押し寄せ、日々ではあるが発掘可能な土地が求められている。このため、本遺跡が伊治城跡であることを一刻も早く確定し、具体的な保存対策を構する必要性が生じてきた。そこで、築館町では関係諸機関の指導をおおぎ、国庫補助事業による5ヶ年の発掘調査を実施することに踏み切った。

本年度はこの事業の2年度であり、城生野唐崎100、100-2、100-5の水田を対象として、7月初旬より発掘の鍼を入れた、その結果、例年ない多雨に悩まされながらも、城柵内の区画施設とみられる大規模な溝2条（SD103・SD104）を検出し、今後の調査への大きな見通しを得ることができた。

また、この他にも本年度は、現状変更に伴う調査2件を実施した。

| 年 度（昭和） | 町 負 担 | 県 負 担 | 国 負 担 | 総 額   |
|---------|-------|-------|-------|-------|
| 62      | 50万円  | 50万円  | 100万円 | 200万円 |
| 63      | 100万円 | 100万円 | 200万円 | 400万円 |

註1)：文献史学による立場からの伊治城跡擬定地をめぐる研究史については、『伊治城跡』（宮城県多賀城跡調査研究所：1978.3）に詳しい。

## II 遺跡の位置と現状

本遺跡は宮城県栗原郡築館町字城生野に所在する。この場所は多賀城跡の北約52kmの位置にあり、多賀城と胆沢城を結ぶほぼ中間地点にあたっている。

宮城県北部の地形をみると、中央部に北上川が流れ、その西側には奥羽山地が南北に大きくよこたわっている。この奥羽山地は山麓部で多数の河川によって開析され、いくつかの小丘陵に分岐している。本遺跡はその最も北に発達した篠館丘陵の末端部と接する河岸段丘上に立地する。

この段丘は周囲を河川、丘陵末端部、さらに小さな谷で囲まれ、独立した地形をなしている。本遺跡の範囲はこの段丘のはば全域と推定される。その規模は、東西が約700m、南北は、南辺の位置を唐崎地区と地蔵堂地区を画する沢のあたりと考えれば、約650m、一迫川と国道4号線が接するあたりと考えれば、約900mとなる。上面には黄褐色の火山灰層が厚く堆積し、縁辺には周囲との比高差が約6mほどある段丘崖が各所で認められる。現状は、100戸を越える住宅が点在し、それ以外の箇所は、主に水田・畠地として利用されている。

現在残っている遺構としては、台地北斜面に東西にのびる空堀状の大溝があり、さらにその北には、これに接してはしる土壠状のわずかな高まりがある。これらは古代において、伊治城の外郭線を構成していたことが宮城県多賀城跡調査研究所の発掘調査（宮多研：1978.3）によって確かめられている。また地元住民の話によると、かつては台地西斜面においてもこれと同じ遺構が残っ



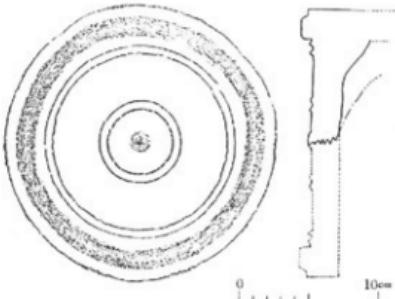
第1図 東北地方の主要な城柵

第2図 宮城県北部の地形と古代城柵・官衙遺跡

ていたらしい。しかしながら、開田と鹿島壇の改修のために旧地形は失われ、現在、その所在を確認することはまったくできない（付図参照）。

遺物の散布は台地上のほぼ全面にわたって認められる。その多くは須恵器と土師器が占めており、このなかでも須恵器の量は圧倒的に多い。また、瓦の分布も唐崎地区を中心にわざかながら認められる。

ところで昭和40年代の前半に、この台地の各所では大規模な開田工事が行われ、その際には多量の遺物が出土した。照明寺の住職であった故松森明心氏が精力的に収集したこれらの遺物は、現在、町指定文化財として一括して保管されている（建築町文化財保護委員会1969・1970.3）。広大な面積のうちまだごくわずかの調査しか終了していない現在、遺跡全体の概要を知る上



第3図 松森氏集重圓文軒丸瓦

で、これらは貴重な資料となっている。さて、それによれば、この台地一帯から出土した遺物は、そのほとんどが8世紀末を中心とした1時期のものに集中している。このことは、これまでの発掘調査（宮多研：1977～1979.3）で発見された多数の住居跡の年代観と一致しており、伊治城の存続期間を考える上で興味深い。また、この松森氏収集の遺物のなかには、重圓文軒丸瓦がある（第3図）。これは多賀城第II期（8世紀中頃～780）の所用瓦と同一の文様意匠である。

### III 周辺の遺跡

本遺跡の周辺には、年代的に近接する奈良・平安時代の遺跡が多い。そのいくつかは、既に圃場整備事業、東北自動車道の建設などに伴って発掘調査されている。これらの遺跡は、本遺跡と直接あるいは間接的に関連すると思われる所以、ここでは、その主なものについて紹介しておきたい。

糠塚遺跡は、本遺跡の東約4.5kmの舌状台地上にある。約6000m<sup>2</sup>の調査が行われ、奈良・平安時代の住居跡が30棟検出された。奈良時代の住居跡から出土した土器は、宮城県北地方における国分寺下層式の基準資料となり得るものである（小井川・手塚：1978.3）。

山の上遺跡は、本遺跡の南約2.5kmにある。前述の糠塚遺跡と同じ奈良時代（国分寺下層式期）の住居跡が3棟検出された（手塚：1980.3）。

また、本遺跡の東約4kmにある大門遺跡でも、奈良時代の住居跡が1棟、それに平安時代の住居跡が1棟検出されている。

御駒堂遺跡は、本遺跡の南約2kmにある。調査の結果、41棟の住居跡が検出された。これらは出土土器の検討から、5群に大別され、それぞれ7世紀末ないし8世紀初め、8世紀前半、8世紀後半、9世紀初頭の年代が与えられている。この遺跡でとくに注目されるのは、8世紀前半の段階において、関東系の土器が使用され、また住居構造の点においても関東地方との関連が認められることである。このことについては、関東地方からの人間の移住が想定されており、また、その背景として政治的な意図がはたらいていたと予想されている（小井川・小川：1982.3）。栗原郡の建郡＝神護景雲元年（767）以前に、このような事実が存在していたことは、東北地方における律令体制の浸透過程を考える上で、きわめて重要なことと言わねばならない。

また、発掘調査によるものではないが、本遺跡の東約4kmには、開田工事の際にヘラ切り無調整の須恵器壺等が出土した、狐塚遺跡がある。この遺跡は窯跡と考えられ、本遺跡に製品を供給した可能性がある（金野・佐藤：1976.3）。

| 番号 | 遺跡名                   | 立地     | 種別    | 時代          | 番号 | 遺跡名           | 立地 | 種別    | 時代                |
|----|-----------------------|--------|-------|-------------|----|---------------|----|-------|-------------------|
| 1  | 松 通 路                 | 丘陵 包含地 | 奈良・平安 |             | 32 | 長 楽 寺 カ 路     | 丘陵 | 寺院跡   |                   |
| 2  | 高 間 郡 分 五 及 び 稲 塚 遺 路 | 丘陵 包含地 | 平安？   |             | 33 | 中 島 通 路       | 丘陵 | 包含地   | 平安                |
| 3  | 長 楽 寺 カ 路             | 丘陵 寺院跡 |       |             | 34 | 泉 武 A 通 路     | 丘陵 | 包含地   | 奈良・平安             |
| 4  | 片 子 沢 通 路             | 。 包含地  | 中世    |             | 35 | 長 者 原 通 路     | 丘陵 | 集落跡   | 飛鳥(中)・奈良・平安       |
| 5  | 蜻 飛 地 路               | 丘陵     | 蜻飛場   |             | 36 | 振 切 大 樹 通 路   | 丘陵 | 包含地   | 奈良                |
| 6  | 四 中 級 路               | 丘陵     | 城     | 中世          | 37 | 浦 沢 通 路       | 丘陵 | 包含地   | 奈良                |
| 7  | 高 島 道                 | 丘陵     | 城     | 中世          | 38 | 古 野 船 道       | 丘陵 | 船     | 中世                |
| 8  | 龍雲寺西古墳群               | 丘陵     | 横穴古墳  | 古墳(後)       | 39 | 西 道 通 路       | 丘陵 | 台地    | 古墳                |
| 9  | 國 天 神 附 通 路           | 丘陵     | 台地    | 櫛文(晚)・弥生    | 40 | 青 野 通 路       | 丘陵 | 包含地   | 奈良・平安             |
| 10 | 八 條 壇 古 墳 群           | 丘陵     | 台地    | 古墳(古)       | 41 | 氣 郡 山 北 通 路   | 丘陵 | 包含地   | 古墳(前)             |
| 11 | 坂 木 城                 | 丘陵     | 城     | 平安・中世       | 42 | 第 甫 城 路       | 丘陵 | 城     | 中世・近世             |
| 12 | 金 矢 通 路               | 丘陵     | 台地    | 包含地         | 43 | 丹 下 阪 下 通 路   | 丘陵 | 台地    | 櫛文                |
| 13 | 用 高 田 道               | 丘陵     | 城     | 中世          | 44 | 小 山 通 路       | 丘陵 | 包含地   | 櫛文                |
| 14 | 絲 ノ 木 道               | 丘陵     | 古 墓 路 |             | 45 | 大 原 星 通 路     | 丘陵 | 鬼 之 城 | 飛鳥・中世<br>（飛鳥・奈良町） |
| 15 | 古 / 日 月 道             | 丘陵     | 城     | 中世          | 46 | 停 道           | 丘陵 | 包含地   | 櫛文(中)             |
| 16 | 江 田 城 道               | 城      | 城     | 中世・近代       | 47 | 蛇 田 山 通 路     | 丘陵 | 包含地   | 櫛文・中世             |
| 17 | 秋 山 城 路               | 城      | 城     | 中世・近代       | 48 | 八 幡 七 里 路     | 丘陵 | 土 壁   | 櫛文                |
| 18 | 御 葵 所 古 墓 群           | 丘陵     | 古 墓   | 古墳(後)・奈良・平安 | 49 | 渠 原 寺 道 通 路   | 丘陵 | 包含地   | 奈良・平安             |
| 19 | 柳 日 通 路               | 丘陵     | 台地    | 弥生(後)・中世    | 50 | 尾 松 通 路       | 丘陵 | 包含地   | 奈良・平安             |
| 20 | 妙 教 寺 通 路             | 丘陵     | 台地    | 櫛文          | 51 | 渠 原 通 路       | 丘陵 | 城     | 中世                |
| 21 | 八 種 通 路               | 丘陵     | 城     | 中世          | 52 | 新 山 神 社 通 路   | 丘陵 | 包含地   | 櫛文                |
| 22 | 八 種 通 路               | 丘陵     | 台地    | 櫛文          | 53 | 大 沢 横 六 古 墓 群 | 丘陵 | 横穴古墳  | 古墳(後)・奈良・平安       |
| 23 | 筑 中 通 路               | 丘陵     | 城     | (蜜町)        | 54 | 高 木 神 通 路     | 丘陵 | 城     | 中世・近世             |
| 24 | 荒 沙 門 古 墓 群           | 丘陵     | 古 墓   | 古墳(後)・奈良・平安 | 55 | 伊 治 城 路       | 丘陵 | 城     | 奈良・平安             |
| 25 | 白 塔 通 路               | 丘陵     | 城     | 中世・近世       | 56 | 甚 內 庫 敷 通 路   | 丘陵 | 包含地   | 奈良                |
| 26 | 小 備 六 古 墓 群           | 丘陵     | 台地    | 奈良・平安       | 57 | 大 仏 古 墓 群     | 丘陵 | 門     | 奈良・平安             |
| 27 | 二 / 宮 通 路             | 丘陵     | 台地    | 櫛文          | 58 | 押 切 通 路       | 丘陵 | 包含地   | 櫛文・弥生(中)          |
| 28 | 一 / 宮 通 路             | 丘陵     | 台地    | 櫛文・弥生(中)    | 59 | 原 田 通 路       | 丘陵 | 集落路   | 櫛文(中)・奈良・平安       |
| 29 | 本 木 通 路               | 丘陵     | 台地    | 包含地         | 60 | 高 田 山 通 路     | 丘陵 | 包含地   | 櫛文                |
| 30 | 鬼 使 城 附 通 路           | 丘陵     | 台地    | 古墳(後)・奈良    | 61 | 西 館 通 路       | 丘陵 | 城     | 中世                |
| 31 | 猪 猪 宋 通 路             | 丘陵     | 城     | 中世          | 62 | 西 大 寺 十 三 塚   | 丘陵 | 墓     | 飛鳥・中世<br>(飛鳥・奈良)  |

| 番号 | 通路名           | 立地      | 種別       | 時代               | 番号      | 通路名         | 立地    | 種別      | 時代          |
|----|---------------|---------|----------|------------------|---------|-------------|-------|---------|-------------|
| 63 | 四 通 路         | 丘陵      | 城 雜      | 中世               | 97      | 浦 山 通 路     | 丘陵    | 城       | 中世          |
| 64 | 梨 岐 郡 路       | 。 城     | 城        | 中世               | 98      | 平 錦 路       | 丘陵    | 城       | 中世・近世       |
| 65 | 猿 衣 横穴 占墳群    | 丘陵      | 横穴古墳     | 古墳(後)            | 99      | 原 口 通 路     | 丘陵    | 具 墓     | 穂文・(晚)      |
| 66 | 上 (古墳・猿衣原跡) 通 | 丘陵      | 城        | 平安(後)            | 100     | 金成東・南・西 通 路 | 丘陵    | 城       | 中世(奈町)      |
| 67 | 大 梨 郡 路       | 。 城     | 新 中世     | 101              | 敷 沢 通 路 | 。 包 合       | 古 墓   | 穂文      |             |
| 68 | 刈 敷 通 路       | 台 地     | 穂文       | 古 墓              | 102     | 鳥 兒 城 路     | 。 城   | 雜       | 近世          |
| 69 | 刈 敷 通 路       | 台 地     | 穂文       | 古 墓              | 103     | 大 久 保 通 路   | 。 包 合 | 地       | 奈良・平安       |
| 70 | 日 真 郡 路       | 台 地     | 城        | 中世               | 104     | 鶴 田 通 路     | 丘陵    | 城       | 中世・近世       |
| 71 | 鏡ノ丸 通 路       | 。 城     | 城        | 穂文(晚)・近世         | 105     | 有 實 奈 通 路   | 丘陵    | 集落      | 奈良・平安       |
| 72 | 宇 南 通 路       | 。 城     | 城        | 穂文(晚)・(前)・(晚)    | 106     | 新 山 通 路     | 丘陵    | 合 地     | 穂文          |
| 73 | 御 構 室 通 路     | 。 包 合   | 地        | 古墳・奈良・平安・近世      | 107     | 輕 石 通 路     | 。 城   | 雜       | 中世・近世       |
| 74 | 山ノ上 通 路       | 。 包 合   | 地        | 奈良               | 108     | 木壳沢 通 路     | 丘陵    | 合 地     | 穂文(前)       |
| 75 | 木 戸 通 路       | 。 集 落   | 路        | 平安(中)・奈良         | 109     | 田 子 通 路     | 丘陵    | 城       | 中世・近世       |
| 76 | 鐵 武 通 路       | 。 集 落   | 路        | 平安(中)・奈良         | 110     | 藤 賀 沢 通 路   | 。 包 合 | 地       | 穂文・奈良・平安    |
| 77 | 萩 波 城 路       | 。 城     | 路        | 中世・近世            | 111     | 八 錦 通 路     | 。 包 合 | 地       | 穂文(前・中)     |
| 78 | 横 頭 貝 塚       | 丘陵地     | 日 墳      | 穂文(前)・生(中・後)     | 112     | 黑 井 貝 塚     | 。 城   | 雜       | 小世          |
| 79 | 木 戸 干 沢 通 路   | 台 地     | 包 合      | 地                | 113     | 古 事 神 通 路   | 。 城   | 城       | 中世          |
| 80 | 照 明 台 通 路     | 丘陵      | 地        | 穂文(中・後)・奈良・奈良・平安 | 114     | 火 林 通 路     | 丘陵    | 古 墓     | 中世・近世       |
| 81 | 側 形 通 路       | 。 包 合   | 地        | 奈良(晚)            | 115     | 福 国 通 路     | 丘陵    | 城       | 中世・近世       |
| 82 | 玉 苑 台 通 路     | 台 地     | 包 合      | 地                | 116     | 山 王 通 路     | 台地    | 合 地     | 中世          |
| 83 | 小 追 櫻 青 路     | 丘陵      | 寺 院 路    | 中世(鎌倉)           | 117     | 城 内 古 墓     | 台 地   | 古 墓     | 古 墓(後)      |
| 84 | 西 離 離 路       | 丘陵      | 城        | 中世(室町)           | 118     | 新 山 通 路     | 丘陵    | 城       | 中世・近世       |
| 85 | 白 烟 通 路       | 丘陵      | 集 落      | 平安               | 119     | 櫛 塚 通 路     | 台 地   | 集落      | 勞生・奈良・平安    |
| 86 | 鬼 峰 郡 路       | 丘陵      | 城        | 中世               | 120     | 光 町 通 路     | 。 包 合 | 地       | 奈良・平安       |
| 87 | 諸 甫 松 古 墳     | 。 古 墓   | 。 古 墓    | 。 古 墓            | 121     | 柴 の 駄 通 路   | 丘陵    | 包 合     | 穂文(晚)・奈良・平安 |
| 88 | 佐 野 通 路       | 。 集 落   | 路        | 奈良・平安            | 122     | 八 錦 通 路     | 丘陵    | 包 合     | 穂文          |
| 89 | 大 林 通 路       | 台 地     | 包 合      | 地                | 123     | 大 雄 貝 塚     | 台 地   | 日 墳     | 穂文(中・後)     |
| 90 | 刈 敷 沼 郡 通 路   | 河川敷     | 包 合      | 地                | 124     | 蓬 田 通 路     | 丘陵    | 古 墓     | 穂文・中世       |
| 91 | 竹 ノ 内 通 路     | 台 地     | 包 合      | 地                | 125     | 大 立 横穴古墳群   | 丘陵    | 横穴古墳    | 古墳(後)・奈良    |
| 92 | 大 門 通 路       | 。 。 集 落 | 路        | 奈良・平安・中世         | 126     | 夷 六 吉 墳     | 丘陵    | 横穴古墳    | 穂文(後)       |
| 93 | 。 。 。 集 落     | 路       | 奈良・平安・中世 | 127              | 敷 味 口 溝 | 丘陵          | 具 墓   | 穂文(後・晚) |             |
| 94 | 賦 塚 通 路       | 。 包 合   | 地        | 奈良・平安            | 128     | 有 賀 沢 通 路   | 丘陵    | 包 合     | 穂文(晚)       |
| 95 | 。 。 。 包 合     | 地       | 奈良・平安    | 129              | 柳 田 通 路 | 。 城         | 新     | 中世      |             |
| 96 | 桃 谷 通 路       | 。 集 落   | 路        | 穂文・古代            | 130     | 喜 々 代 墓     | 台 地   | 具 墓     | 穂文(古・中・後)   |

第1表 通路地名表

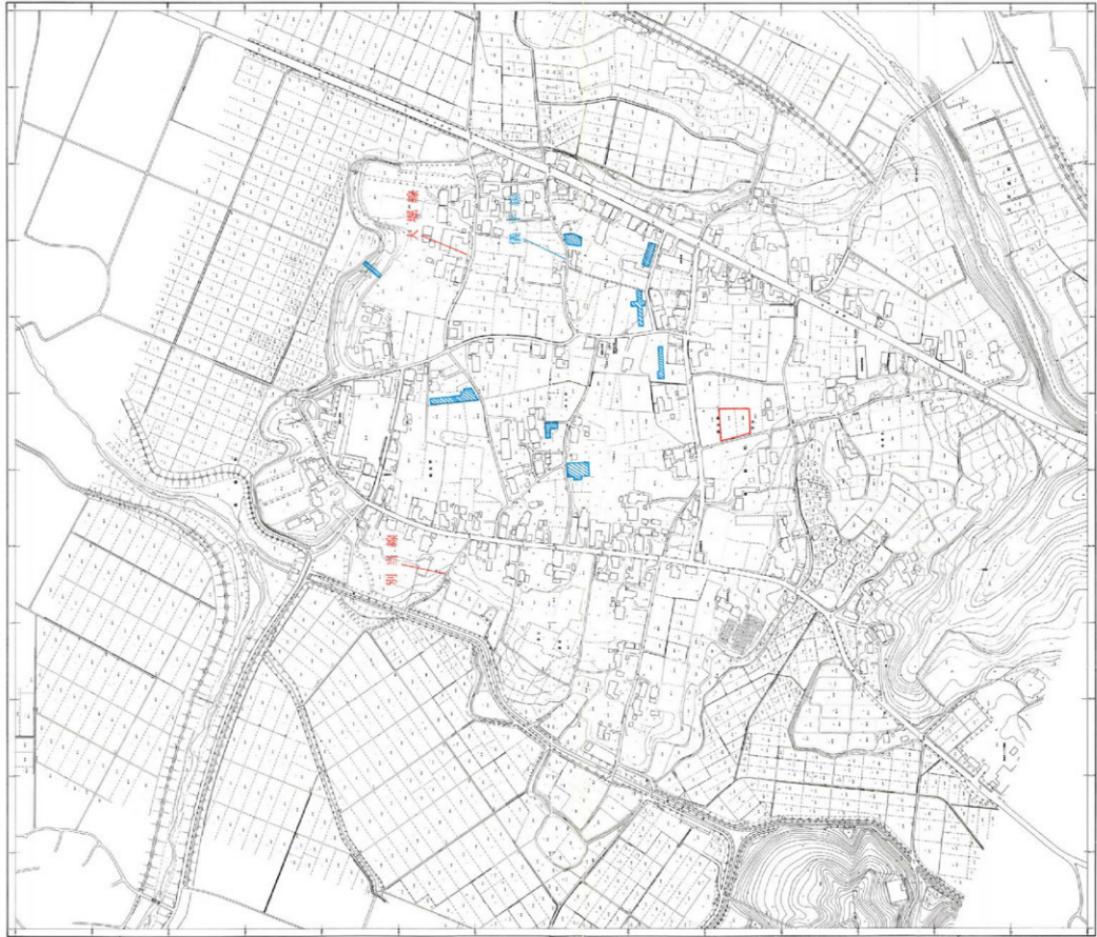


#### IV 伊治城および栗原郡に関する古代史年表

| 西暦  | 和暦    | 記事   | 文献                   |
|-----|-------|--|----------------------|
| 767 | 神護景雲1 | 10. 伊治城の造営なる。造営にたずさわった鎮守將軍田中多太麻呂らに叙位、外從五位下道嶋三山は從五位上を賜う。  | 続日本紀                 |
| 768 | 2     | 12. 隆奥や他国百姓で伊治・桃生に住みたいものの課役を免ずる。   | 続日本紀                 |
| 769 | 3     | 1. 伊治・桃生にうつり住みたいものの課役を免ずる。<br>2. 桃生・伊治に坂東8国百姓を募り安置しようとする。<br>6. 栗原郡をおく。これはもと伊治城である。<br>(「続日本紀」では神護景雲元年11月乙巳条に収めるが錯簡とみられここでは神護景雲3年6月9日乙巳説をとる)<br>6. 浮宿の百姓2,500人を伊治城に遷す。 | 続日本紀<br>続日本紀<br>続日本紀 |
| 780 | 宝亀11  | 3. 上治郡大領伊治公啓麻呂は牡鹿郡の大領道嶋大柄、按察使紀広純を伊治城で殺す。ついで多賀城にせまり府庫の物をとり放火する。   | 続日本紀                 |
| 792 | 延暦11  | 1. 斯波村の夷胆沢阿奴志己らは帰服したいが伊治村の俘にさまたげられて果せないでいることを訴える。  | 類聚国史<br>卷190         |
| 796 | 15    | 11. 伊治城と玉造塞の中間に1駅を置く。<br>11. 相模・武藏・上総・常陸・上野・下野・出羽・越後などの住民9,000人を伊治城に遷し置く。  | 日本後紀<br>日本後紀         |
| 804 | 23    | 11. 栗原郡に3駅をおく。   | 日本後紀                 |
| 837 | 承和4   | 4. 3年春より百姓の妖言に奥邑の民が動搖し、栗原・賀美両郡の百姓多く逃亡する。また栗原・桃生以北の俘囚は反覆して定まらないので援兵1,000人を差發して非常に備える。   | 続日本後紀                |

| 西暦      | 和暦          | 記事  | 文献    |
|---------|-------------|---|-------|
| 905     | 延喜5<br>(着手) | 延喜式<br>○神名式 陸奥國100座<br>栗原郡7座 大1座 表刀神社<br>小6座 志波姫神社 <small>名太</small><br>雄銳神社<br>胸形根神社 和我神社<br>香取御兒神社<br><br>○民部式 東山道・陸奥國大國<br>……志太、栗原、磐井……<br>○兵部式 陸奥國駿馬<br>……玉造、栗原、磐井……各5疋 | 延喜式   |
| 931～938 | 承平年間        | 和名類聚抄 陸奥國<br>栗原郡(久利波良)<br>(郷名) 栗原・清水・仲村・会津  | 和名類聚抄 |
| 1062    | 康平5         | 8. 前9年の役で源頼義軍は、栗原郡宮岡に到り、清原武則軍と合う。軍を編成し磐井郡中山に赴く。   | 陸奥話記  |
| 1189    | 文治5         | 8.7. 文治の役で源頼朝の奥羽攻めに対し、藤原泰衡自身は、国分原鞍橋(仙台市)に陣し、その後方栗原・三迫・黒岩口・一野辺には、若九郎大夫らを大将軍となし数兵の勇士を差しむけた。<br><br>8.21. 頼朝軍は暴風雨について途中栗原・三迫などの要害による平泉方の抵抗を排しつつ松山道より沖久毛橋に到る。                   | 吾妻鏡   |
| 1190    | 建久1         | 2.12. 頼朝の征東に最後まで抵抗する大河次郎兼任と頼朝方の軍士、在岡御家人らとが栗原の一迫で戦う。<br><br>3.10. 栗原寺に逃げのびた兼任が樵夫らに殺害される。   | 吾妻鏡   |

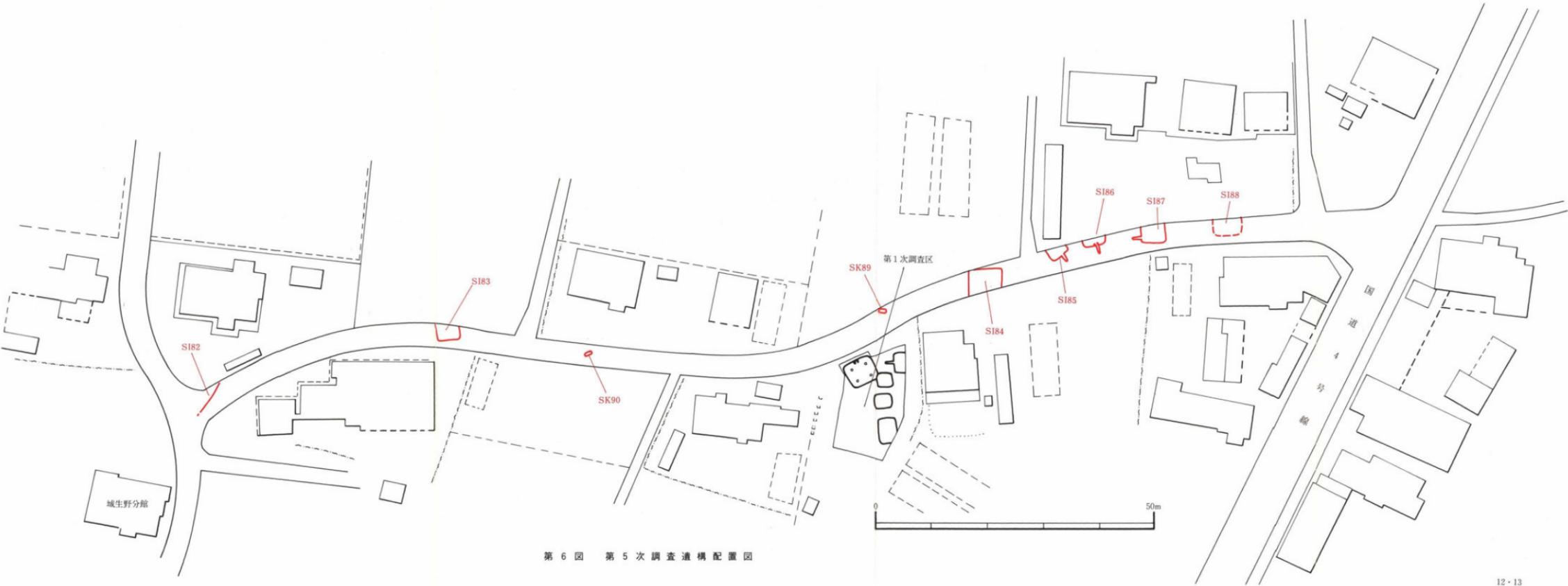
伊治城跡推定地地形図



第5図 調査区位置図

これまでの調査区

昭和63年調査区



第6図 第5次調査構造配置図

## V 発見された遺構と遺物

### 第5次調査

調査地 城生野唐崎

面 積 1080m<sup>2</sup>

期 間 昭和63年1月18日～2月9日

本調査は、農道儀平線の整備事業に伴う発掘調査である。この農道は、総延長が216mあり、遺跡ほぼ中央にある城生野地区公民館から国道4号線へ通じている。整備事業の目的は、これを拡幅・舗装するというものであった。

ところで町教育委員会では、この調査に先立ち、この路線沿いにおける遺構分布の把握を目的として、第1次調査を実施した（篠館町教育委員会：1988.3）。これは、農道なかほどの南側隣線地に調査区を設定したもので、その結果、5棟の堅穴住居跡（S I 58～S I 62）が発見されている。第1次調査区のこのような状況から、隣接するこの農道の地下には、多数の住居跡の存在が予想された。そこで、調査の方針は、路線敷全面を対象とすることとし、舗装工事に伴う表土剥離作業と並行して遺構確認を実施する計画を立てた。

その結果、この調査で検出された遺構は、堅穴住居跡7棟（S I 82～S I 88）、土壙2基、多数の溝・ピット等である（第6図）。検出された住居跡の分布は、調査区の西側と東側に偏る傾向が認められ、なかでも東側では、5棟の住居跡が東西に連った状況で発見された。

なお、本調査は、着手時期が冬期へと人幅に遅れてしまったため、遺構の損傷の恐れを考え、精査の実施は、住居跡1棟（S I 86）、土壙2基（SK89・SK90）に留め、他の遺構については、土盛りによる現状保存を図っている。

#### S I 86住居跡

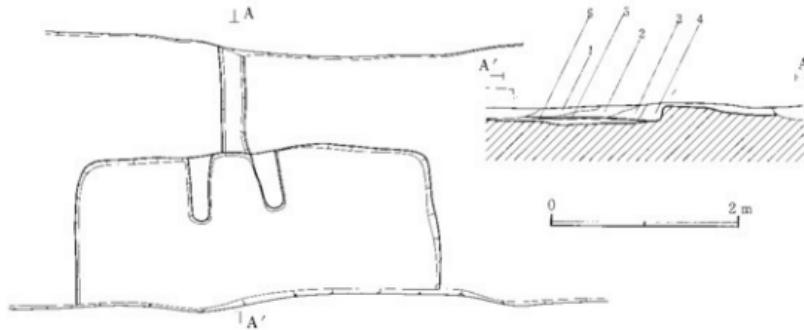
〔確認面〕 地山面で確認した。北半は、調査区外にある。

〔平面形・規模〕 方形を呈する。規模は、南北1.5m以上、東西3.9m。

〔堆積土〕 住居内の堆積土は、2層に区分された。第1層は、にぶい暗褐色を呈するシルトである。第2層は、暗褐色のシルトであり、焼土粒をわずかに混じえている。

〔壁〕 急激な角度で立ち上がる。残存壁高は、8cm～15cm。

〔床〕 挖り込んだ地山を、にぶい黄褐色のシルトで埋めたのち、さらに褐色の粘土質シルトを貼って、床としている。上面は、木根による擾乱を部分的に受けており、遺存状況はあまり良好ではない。



| 層位 | 類別 | 土色             | 土質  | 備考                       |
|----|----|----------------|-----|--------------------------|
| 1  | 1  | 灰・黄褐色(10YR4/3) | シルト |                          |
| 2  | 2  | 暗褐色(10YR3/4)   | シルト |                          |
| 3  | 3  | 暗褐色(10YR3/3)   | シルト | 地土粒をわずかに含む。              |
| 4  | 4  | 黒褐色(10YR3/1)   | シルト | カマド内堆積土。炭化物を多量に含む。やわらかい。 |
| 5  | 5  | 褐色(10YR4/4)    | シルト | 住居跡底土。かたく、しまっている。        |
| 6  | 6  | 灰・黄褐色(10YR5/3) | シルト | 住居面方土。                   |

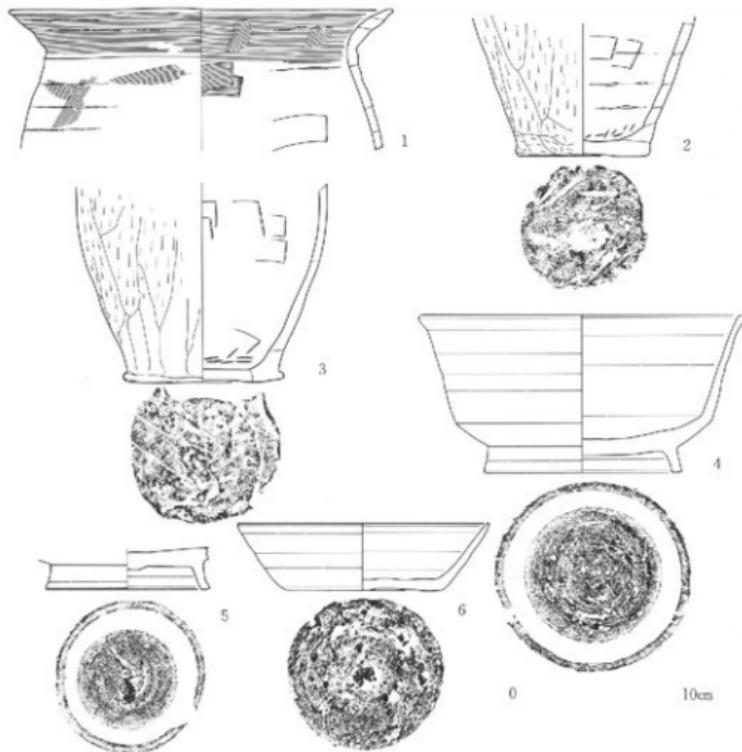
第7図 S I 58住居跡

(カマド) 北壁中央のわずかに西寄りに付設されている。粘土積み上げ側壁による燃焼室と細長い煙道部からなる。煙道部の先端は、溝による破壊を受けていた。

燃焼部は、幅1.0m、奥行70cm。底面は、平坦である。煙道部とは、住居壁の延長線上に一致する落差15cmの段によって区画されている。煙道部は、この段から外側へ1.1mのところまで残存している。底面は、50cm張りだしたところでレベルが次第に下がって行き、ゆるやかな段をつくっている。

第2表 S I 58住居跡出土遺物破片集計表

| 種別 | 器種  | 部位           | 器形           |        | 調整 | 箇所 | 記  |
|----|-----|--------------|--------------|--------|----|----|----|
|    |     |              | 外<br>面       | 内<br>面 |    |    |    |
| 土  | 环   | 口縁部          | ヨコナデニヨコナデ    |        |    | 1  | 1  |
|    |     | ヨコナデニヨコナデ    |              |        |    | 2  | 2  |
|    | 体部  | ヨコナデニヨコナデ    |              |        |    | 1  | 1  |
|    | 口縁部 | ヨコナデニヨコナデ    |              |        | 1  | 1  | 2  |
| 土  | 土   | ハケメハケメ       |              |        |    | 3  |    |
|    |     | ケズリーハケメ      |              |        | 3  | 2  | 7  |
|    | 体部  | ケズリーハラナデ     |              |        | 6  |    |    |
|    | 口縁部 | ケズリーハラナデ     |              |        | 1  | 1  |    |
|    | 土   | ケズリーハラナデ     |              |        | 1  | 1  | 2  |
|    | 器   | ロクロナデニロクロナデ  |              |        | 8  | 3  | 12 |
|    | 底   | 不<br>明       | 不<br>明       |        | 4  |    | 4  |
|    | 器   | 手持ちケズリーハラナデ  |              |        | 1  |    | 1  |
|    | 底   | 手持ちケズリーハラナデ  |              |        | 1  |    | 1  |
|    | 器   | 手持ちケズリーロクロナデ |              |        | 2  |    | 2  |
|    | 底   | 手持ちケズリーロクロナデ |              |        | 1  |    | 1  |
|    | 器   | 丁持ケズリーハラナデ   |              |        | 1  |    | 1  |
|    | 底   | 丁持ケズリーハラナデ   |              |        | 1  |    | 1  |
|    | 器   | ケズリーハラナデ     |              |        | 1  | 1  | 2  |
|    | 底   | ケズリーハラナデ     |              |        | 1  | 1  | 5  |
|    | 合   | 計            | 30           | 15     | 12 | 57 |    |
| 器  | 環   | 口縁部          | ロクロナデニロクロナデ  |        |    | 8  |    |
|    | 器   | 体部           | ロクロナデニロクロナデ  |        |    | 3  | 3  |
|    | 器   | 口縁部          | 手持ちケズリーロクロナデ |        |    | 1  |    |
|    | 器   | 体部           | 平行凹キメーナデ     |        |    | 1  |    |
|    | 器   | 不明           | 不明           | 不明     | 9  | 1  | 10 |
|    | 底   | 合            | 22           |        | 1  | 23 |    |
|    | 器   | 底            | 計            |        |    | 80 |    |



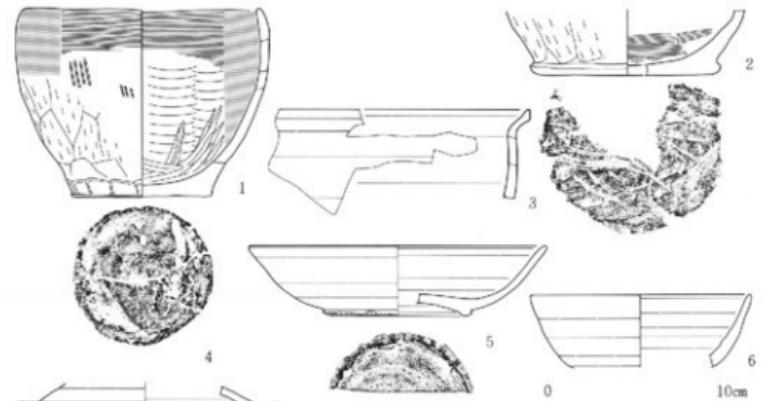
| No. | 種別  | 器種       | 出土<br>遺構 | 時<br>期 | 法<br>規 |      |      | 外<br>面 |       |                 | 内<br>面 |       |       | 登録<br>年 |
|-----|-----|----------|----------|--------|--------|------|------|--------|-------|-----------------|--------|-------|-------|---------|
|     |     |          |          |        | 器高     | 口径   | 底径   | 口縁部    | 体 部   | 底 部             | 口縁部    | 体 部   | 底 深   |         |
| 1   | 土師器 | 甕        | S.I.86 床 |        | 10.6   |      |      | ヨコナデ   | 狭いナデ  |                 | ヨコナデ   | ヘラナデ  |       | C - 34  |
| 2   | 土師器 | 甕        | S.I.86 床 |        |        | 7.0  |      | ケズリケズリ |       |                 | ヘラナデ   | ヘラナデ  |       | C - 35  |
| 3   | 土師器 | 甕        | S.I.86 床 |        |        | 8.3  |      | ケズリ木葉痕 |       |                 | ヘラナデ   | ヘラナデ  |       | C - 36  |
| 4   | 須恵器 | 高台付<br>蓋 | S.I.86 床 |        | 8.5    | 17.5 | 10.6 | ロクロナデ  | ロクロナデ | 切り離し形<br>輪状・へら形 | ロクロナデ  | ロクロナデ | ロクロナデ | E - 29  |
| 5   | 転用鏡 | 环        | S.I.86 床 |        |        |      | 8.8  |        |       | 鏡面              |        |       | ロクロナデ | S - 1   |
| 6   | 須恵器 | 环        | S.I.86 床 |        | 3.6    | 10.5 | 8.4  | ロクロナデ  | ロクロナデ | 鏡面              | ロクロナデ  | ロクロナデ | ロクロナデ | E - 30  |

第8図 S.I.86住居跡出土遺物（1）

〔周溝〕認められない。

〔出土遺物〕 遺物は、床面上とカマド燃焼部内堆積土から、まとまって出土した。うちわけは、土師器環・甕・須恵器環・高台付环・蓋・甕・転用鏡である（第8・9図）。

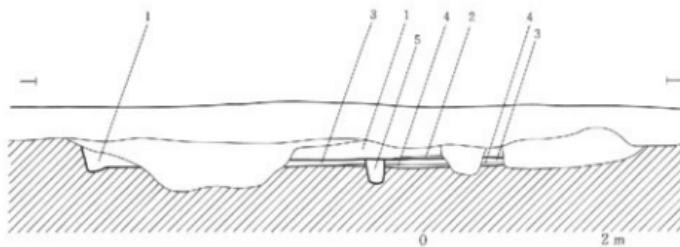
第8図5に図示した転用鏡は、須恵器高台付环の高台部を転用したもので、使用面には、墨痕が観察される。



第9図 SI 86住居跡出土遺物（2）

### S I 88住居跡

調査区の南端付近で確認した。本住居跡は、重機による表土剥離の際に掘り過ぎてしまっているため、断面図による記録を行ったのみである。このため、正確な平面規模・構造等については、



| 剖位 | 層No. | 土 色                 | 土 質 | 備                 | 考 |
|----|------|---------------------|-----|-------------------|---|
| 1  | 1    | IC-3a 黄褐色(10YR 5/3) | シルト |                   |   |
| 2  | 2    | 暗褐色(10YR 3/3)       | シルト | 生品粘、炭化物を多量に含む。    |   |
| 3  | 3    | 暗褐色(10YR 3/3)       | シルト | 住居跡底土。白色粘土を多量に含む。 |   |
| 4  | 4    | 黒褐色(10YR 3/2)       | シルト | 住居跡の方埋土。          |   |
| 5  | 5    | 黒褐色(10YR 2/3)       | シルト | ピット内堆積土。          |   |

第10図 S I 88住居跡

知ることができなかった。

断面観察によると、床面上からは、ピットが1基掘り込まれている。また、床面の西隅が若干凹んでいることから、周溝が巡らされていた可能性もあるが、これについては断定することができなかった。

### S I 82~85・87住居跡

いずれも未精査の住居跡である。形態はすべて方形を呈しているが、全体の規模のわかるものは無い。カマドは、S I 85とS I 87で確認した。

### 第5表 S I 85住居跡出土遺物破片集計表

| 種別                    | 器種   | 部位    | 器 面    |        |     | 計 |  |
|-----------------------|------|-------|--------|--------|-----|---|--|
|                       |      |       | 外 面    | 内 面    | 調 整 |   |  |
| 上<br>部<br>須<br>惠<br>器 | 环    | 底 部   | ヨコナダ   | 一      | カタ  | 1 |  |
|                       | 11種器 | ヨコナダ  | アーヨコナダ | 1      |     |   |  |
|                       |      | ハケメ   | ハケメ    | 1      |     |   |  |
|                       |      | ハケメ   | ヨコナダ   | 1      |     |   |  |
|                       |      | ケズリ   | ヨコナダ   | 1      |     |   |  |
|                       |      | ケズリ   | 一不     | 明      | 1   |   |  |
|                       |      | 不     | 明      | 明      | 4   |   |  |
|                       |      | ケズリ   | 一ナ     | デ      | 1   |   |  |
|                       |      | 不     | 明      | ハケメ    | 1   |   |  |
|                       |      | 合     |        | 計      | 12  |   |  |
| 須<br>惠<br>器           | 环    | 11種器  | ロクロナダ  | 一ロクロナダ | 2   |   |  |
|                       | 11種器 | ロクロナダ | 一ロクロナダ | 1      |     |   |  |
|                       | 11種器 | ロクロナダ | 一ロクロナダ | 2      |     |   |  |
|                       | 合    |       | 計      | 5      |     |   |  |
| 總                     |      | 計     | 17     |        |     |   |  |

上面確認の際に、須恵器・土師器の破片が若干出土している。

### S K 89土壇

(確認面) 地山面で確認した。

(平面形・規模) 東西に長い長方形を呈しており、方向は、長軸を東西に対し、やや南に偏している。規模は、長軸1.8m以上、短軸90cm。

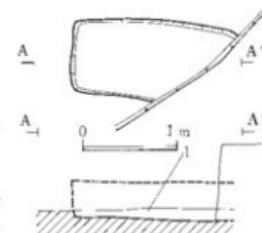
(堆積土) 堆積土は、1層確認された。この層は、粘性・しまりのある暗褐色のシルトで、地山ブロックと炭を少量混じえ

第3表 S I 88住居跡出土遺物破片集計表

| 種別  | 器種 | 部位    | 器 面  |       |       | 計 |
|-----|----|-------|------|-------|-------|---|
|     |    |       | 外 面  | 内 面   | 調 整   |   |
| 須恵器 | 環  | 底 部   | ヨコナダ | 一     | ロクロナダ | 1 |
|     |    | 平行叩キメ | 一    | 平行叩キメ | 1     |   |
|     | 合  |       | 計    | 2     |       |   |

第4表 S I 84住居跡出土遺物破片集計表

| 種別          | 器種    | 部位    | 器 面    |       |      | 計    |   |
|-------------|-------|-------|--------|-------|------|------|---|
|             |       |       | 外 面    | 内 面   | 調 整  |      |   |
| 土<br>師<br>器 | 口縁部   | ロクロナダ | 一      | ヨコナダ  | 1    |      |   |
|             | 体 部   | ヨコナダ  | 一      | ヨコナダ  | 1    |      |   |
|             | 口縁部   | ヨコナダ  | 一      | ヨコナダ  | 3    |      |   |
|             |       | ハケメ   | ハケメ    | 1     |      |      |   |
|             |       | ハケメ   | 一不     | 明     | 1    |      |   |
|             |       | ケズリ   | ハケメ    | 5     |      |      |   |
|             |       | ケズリ   | 一不     | 明     | 3    |      |   |
|             |       | ナ     | ナ      | 2     |      |      |   |
|             |       | 不     | ハケメ    | 1     |      |      |   |
|             |       | 不     | 明      | 8     |      |      |   |
| 合           |       | 計     | 32     |       |      |      |   |
| 須<br>惠<br>器 | 口縁部   | ロクロナダ | 一      | ロクロナダ | 2    |      |   |
|             | 底 部   | ヨコナダ  | 一      | ロクロナダ | 1    |      |   |
|             | 口縁部   | ヨコナダ  | 一      | ロクロナダ | 1    |      |   |
|             | 平行叩キメ | 一     | 平行叩キメ  | 1     |      |      |   |
|             | 底 部   | ヨコナダ  | 一      | ヨコナダ  | 1    |      |   |
|             | 平行叩キメ | 一     | 圓心回文アメ | 1     |      |      |   |
|             | 底 部   | ヨコナダ  | 一      | ヨコナダ  | 1    |      |   |
|             | 平行叩キメ | 一     | 回文アメ   | 1     |      |      |   |
|             | ナ     | ナ     | 一      | 回文アメ  | 1    |      |   |
|             | 不     | ケズリ   | 不      | 明     | 1    |      |   |
| 合           |       | 計     | 8      |       |      |      |   |
| 土<br>師<br>器 | 不明    | 体 部   | ヨコナダ   | 一     | ヨコナダ | 1    |   |
|             | 合     |       | 計      | 1     |      |      |   |
|             | 總     | 不明    | 体 部    | ヨコナダ  | 一    | ヨコナダ | 1 |
| 合           |       | 計     | 1      |       |      |      |   |
| 總           |       | 計     | 41     |       |      |      |   |



第11図 S K 89 土 塚

ている。

(壁) 重機によって、上部が大きく削平されてしまつておらず、壁は10cmほどの高さまでしか残っていない。直立気味に立ち上がっている。

| 部位  | 質 | 上 色           | 土 質 | 保                              | 另 |
|-----|---|---------------|-----|--------------------------------|---|
| 1 1 | 無 | 褐色 (10YR 3/3) | シルト | 粘性・しまりあり。ややわらかい。地山ブロック・度を少留せん。 |   |

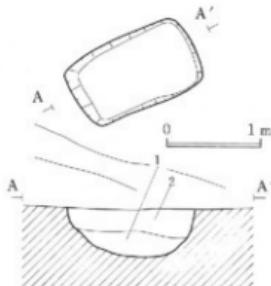
(底面) 凹凸が無く、平坦。

(出土遺物) 無し。

### S K 90 土壙

(確認面) 地山面で確認した。

(平面形・規模) 東西に長い長方形を呈する。方向は、長軸で東西に対し、大きく北に偏している。規模は、長軸 1.4m、短軸 80cm。

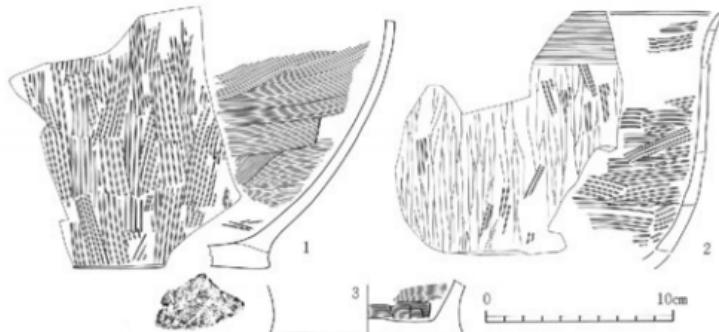


第6表 SK 90 土壙出土遺物破片集計表

| 種別  | 器種 | 部 位  | 面     |         | 計 |
|-----|----|------|-------|---------|---|
|     |    |      | 外 面   | 内 面     |   |
| 土師器 | 甕  | 体 部  | ハ ケ メ | メ ハ ケ メ | 5 |
|     |    | 体~底部 | ホ ホ ホ | ホ ホ ホ   | 1 |
|     |    | 合    |       | 計       | 6 |

| 層位 | 層号 | 土 色             | 土 型   | 備                    | 考 |
|----|----|-----------------|-------|----------------------|---|
| 1  | 1  | 褐 色 (10YR3/3)   | シ ル ト | 骨片・腹・焼土を混じえる。しまりがある。 |   |
| 2  | 2  | 暗 褐 色 (10YR3/3) | シ ル ト | 炭・焼土・地山段を混じえる。       |   |

第12図 SK 90 土壙



| No | 種別  | 器種 | 出土<br>場所 | 層号 | 法<br>量 | 外 面 |    | 内 面 |                   | 登録<br>No        |      |
|----|-----|----|----------|----|--------|-----|----|-----|-------------------|-----------------|------|
|    |     |    |          |    |        | 器高  | 口徑 | 底径  | 口縫部               |                 |      |
| 1  | 土師器 | 甕  | SK 90    | 2  |        |     |    |     | ハ ケ メ 木 盆 残       | ヘ ラ ナ デ ヘ ラ ナ デ | C-40 |
| 2  | 土師器 | 甕  | SK 90    | 2  |        |     |    |     | ヨ コ ナ デ 焼 土 な が け | ハ ケ メ ハ ケ メ     | C-41 |
| 3  | 土師器 | 甕  | SK 90    | 2  | 10.4   |     |    |     | 不 明 ナ デ           | ヘ ラ ナ デ ヘ ラ ナ デ | C-42 |

第13図 SK 90 土壙出土遺物

(堆積土) 堆積土は、2層に区別された。第1層は、しまりのある暗褐色のシルトで、骨片、炭、焼土を多量に混じている。第2層は、第1層より赤味の強いシルトであり、炭、焼土、地山ブロックを混じえているが、骨片は認められない。

(壁) 長軸方向の壁は、丸味を帯びて立ち上がっており、短軸方向の壁は、直立気味に立ち上がっている。残存壁高は、50cm。

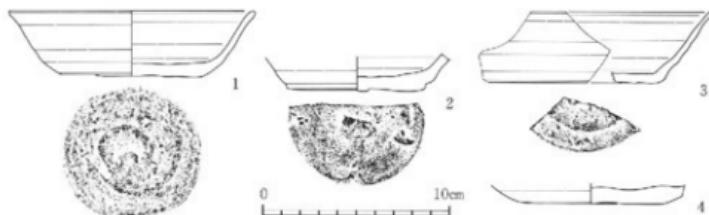
なお、前述したように、堆積土中には焼土や骨片が認められたが、壁には明瞭な焼面は観察されなかった。

(底面) 凹凸が無く、平坦。

(出土遺物) 第2層から、土師器甕が出土した(第13図)。

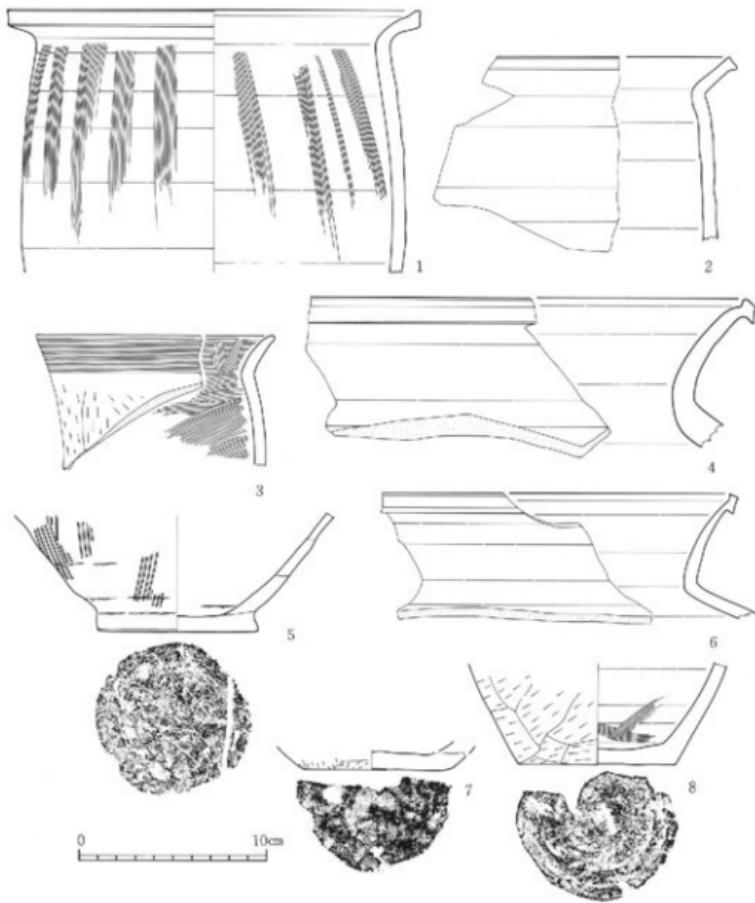
#### 遺構外の出土遺物

本調査では、遺構外から、比較的多くの土師器・須恵器片が出土した。これらは、重機による表土剥離ならびに遺構確認の際に出土したものであり、その多くは本来、住居跡など古代の遺構に伴うものであった可能性が高い。ここでは、主要なものを図示しておく(第14~16図)。



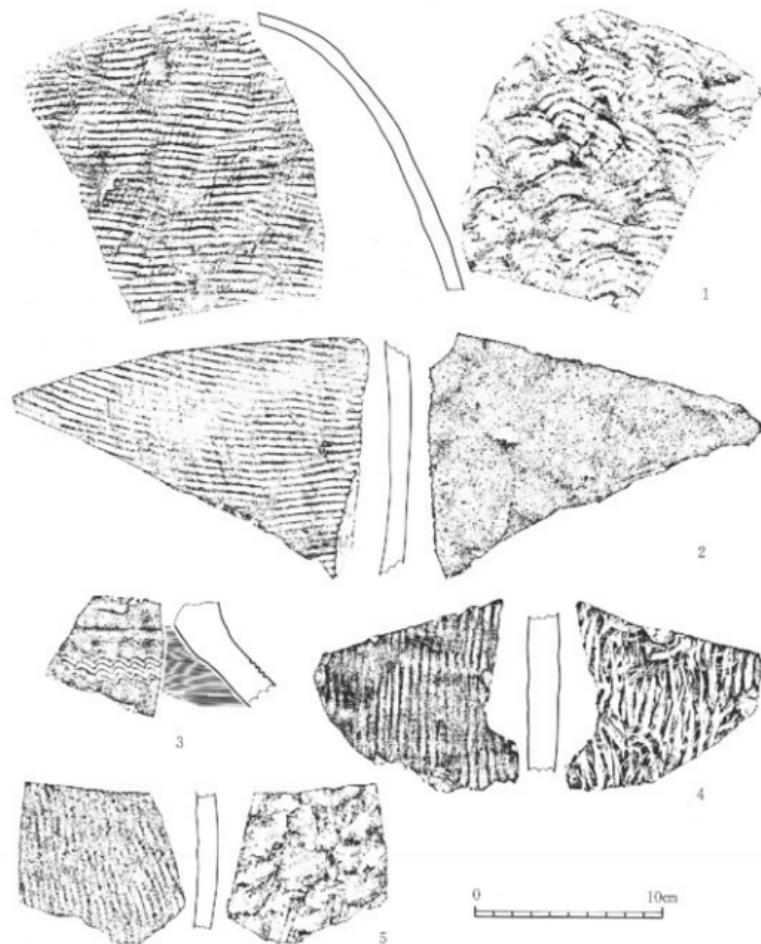
| No. | 種別  | 断面 | 出土<br>層 | 法<br>軸 |              | 外<br>面 |       |       |        | 内<br>面 |       |       |      | 登録<br>No. |
|-----|-----|----|---------|--------|--------------|--------|-------|-------|--------|--------|-------|-------|------|-----------|
|     |     |    |         | 器高     | 口径<br>(13.2) | 底径     | 口縁部   | 体部    | 底      | 口縁部    | 体部    | 底     | 口縁部  |           |
| 1   | 須恵器 | 环  | 遺構外     |        | 3.5          | 7.3    | ロクロナデ | ロクロナデ | 圓錐へう切り | ロクロナデ  | ロクロナデ | ロクロナデ | E-34 |           |
| 2   | 須恵器 | 环  | 遺構外     |        |              | 7.3    | ロクロナデ | ロクロナデ | 圓錐へう切り | ロクロナデ  | ロクロナデ | ロクロナデ | E-35 |           |
| 3   | 須恵器 | 环  | 遺構外     |        | 3.8          |        | ロクロナデ | ロクロナデ | 圓錐へう切り | ロクロナデ  | ロクロナデ | ロクロナデ | E-36 |           |
| 4   | 須恵器 | 环  | 遺構外     |        |              | 7.6    | ロクロナデ | ロクロナデ | 圓錐へう切り | ロクロナデ  | ロクロナデ | ロクロナデ | E-37 |           |

第14図 第5次調査遺構外出土遺物(1)



| No | 種別  | 形 | 出土<br>遺構 | 調査<br>部 | 法 盆    |     | 外 表 |                 |            | 内 表 |            |            | 登録<br>No |        |
|----|-----|---|----------|---------|--------|-----|-----|-----------------|------------|-----|------------|------------|----------|--------|
|    |     |   |          |         | 高      | 口 径 | 底 径 | 口 隙 部           | 体 部        | 底 部 | 口 隙 部      | 体 部        | 底 部      |        |
| 1  | 土師器 | 甕 | 遺構外      |         | (21.0) |     |     | ロクロナデ<br>ナ      | ロクロナデ<br>ナ |     | ロクロナデ<br>ナ | ロクロナデ<br>ナ |          | D - 7  |
| 2  | 土師器 | 甕 | 遺構外      |         |        |     |     | ロクロナデ<br>ナ      | ロクロナデ<br>ナ |     | ロクロナデ<br>ナ | ロクロナデ<br>ナ |          | D - 8  |
| 3  | 土師器 | 甕 | 遺構外      |         |        |     |     | ヨコナデ<br>ケズリ     |            |     | ヨコナデ<br>ナ  | ヨコナデ<br>ナ  |          | C - 45 |
| 4  | 須恵器 | 甕 | 遺構外      |         |        |     |     | ロクロナデ<br>ナ      | ロクロナデ<br>ナ |     | ロクロナデ<br>ナ | ロクロナデ<br>ナ |          | E - 38 |
| 5  | 土師器 | 甕 | 遺構外      |         | 8.5    |     |     | ハケノ木皿底          |            |     | 木明木明       |            |          | C - 44 |
| 6  | 須恵器 | 甕 | 遺構外      |         |        |     |     | ロクロナデ<br>ナ      | ロクロナデ<br>ナ |     | ロクロナデ<br>ナ | ロクロナデ<br>ナ |          | E - 39 |
| 7  | 土師器 | 甕 | 遺構外      |         | 8.0    |     |     | 『萬古陶メリ』<br>抱オサエ |            |     |            | ロクロナデ<br>ナ |          | D - 9  |
| 8  | 土師器 | 甕 | 遺構外      |         | 8.4    |     |     | ケズリナ<br>デ       |            |     | ヌクロナデ<br>ナ | ヌクロナデ<br>ナ |          | D - 10 |

第15図 第5次調査遺構外出土遺物（2）



| No. | 種別  | 器種 | 出土遺構 | 測量No. | 法面 |    |    |       | 外面 |    |        |    | 内面 |      |    |    | 登録No. |
|-----|-----|----|------|-------|----|----|----|-------|----|----|--------|----|----|------|----|----|-------|
|     |     |    |      |       | 高さ | 口徑 | 底径 | 口縫部   | 体部 | 底部 | 口縫部    | 体部 | 底部 | 口縫部  | 体部 | 底部 |       |
| 1   | 須磨器 | 器  | 遺構外  |       |    |    |    | 平行凹キメ |    |    | 圓筒27ナメ |    |    | E-40 |    |    |       |
| 2   | 須磨器 | 器  | 遺構外  |       |    |    |    | 平行凹キメ |    |    | 無文アテメ  |    |    | E-41 |    |    |       |
| 3   | 須磨器 | 器  | 遺構外  |       |    |    |    | 平行凹キメ |    |    | ナ      |    |    | E-42 |    |    |       |
| 4   | 須磨器 | 器  | 遺構外  |       |    |    |    | 平行凹キメ |    |    | 圓筒19ナメ |    |    | E-43 |    |    |       |
| 5   | 須磨器 | 器  | 遺構外  |       |    |    |    | 平行凹キメ |    |    | 無文アテメ  |    |    | E-44 |    |    |       |

第16図 第5次調査遺構外出土遺物（3）

## 第7次調査

調査地 城生野唐崎100、100-2、100-5

面積 1500m<sup>2</sup>

期間 昭和63年7月1日～10月30日

本遺跡では、I章でも指摘したように、北辺の一部で確認された外郭施設を除くと、まだ城柵遺跡であることを具体的に裏付けるような遺構が発見されていない。このことが、本遺跡を文献上にみられる伊治城跡であると確定する上で、最も大きな課題となっていた。そこで、今回の国庫補助事業では、政府跡や実務官衙ブロックなど、城柵としての主要な部分の解明を最大の目的として、実施した。

これまでに実施された遺跡北半を対象とする調査では、堅穴住居跡以外に古代の遺構はまったく発見されていない。そこで、今回調査区の設定にあたっては、こういった過去の調査成果を重視して、これまでよりやや南寄りの位置に調査区を設けることにした。

その結果、今回の調査では、建物跡等は発見されなかったものの、大規模な城内の区画施設(SD 103・SD 104溝)を発見することができた。なかでもSD 103溝では北西の隅が把えられ、調査区外の南東方向に、この溝によって区画された一画を想定することが可能となった。このことは、本遺跡の構造を知るうえでの具体的な手がかりといえ、これによって、今後の調査への大きな見通しを得ることができたといえる。

なお、9月24日には、一般を対象とした現地説明会を行い、調査成果の普及につとめたところ、約200名の見学者を集め、活況を呈した。

### S I 91住居跡

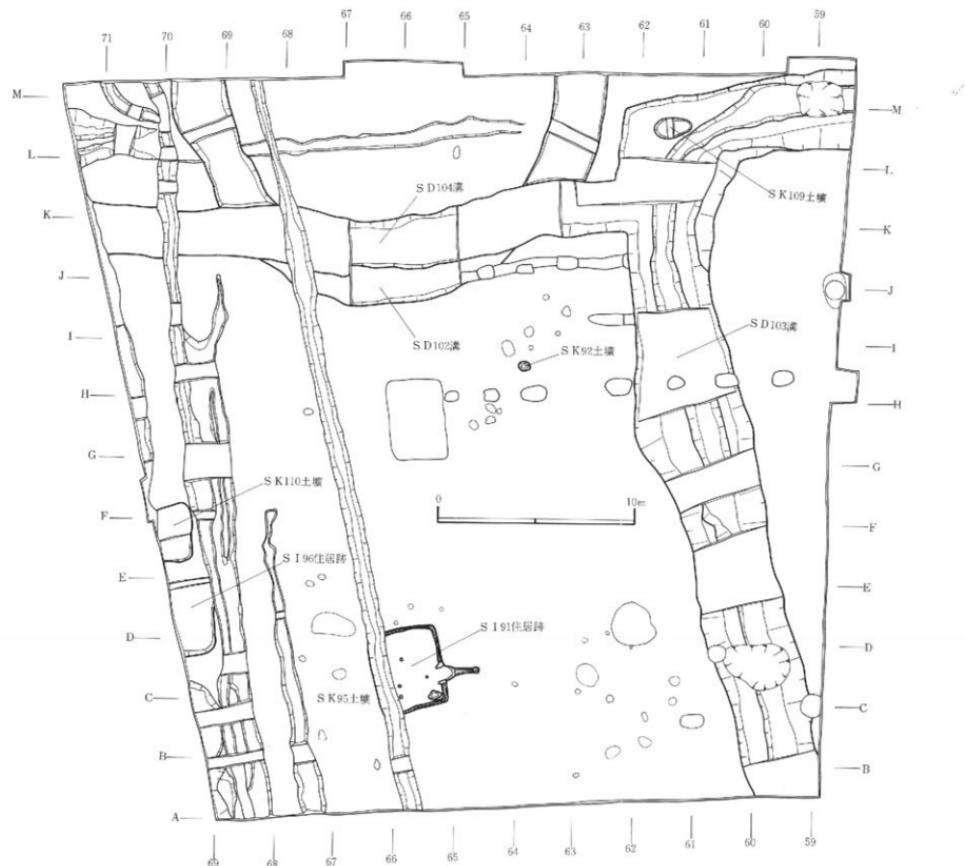
〔確認面〕 地山面で確認した。

〔平面形・規模〕 南北に長い長方形を呈する。規模は、南北4.1m、東西3.5m。

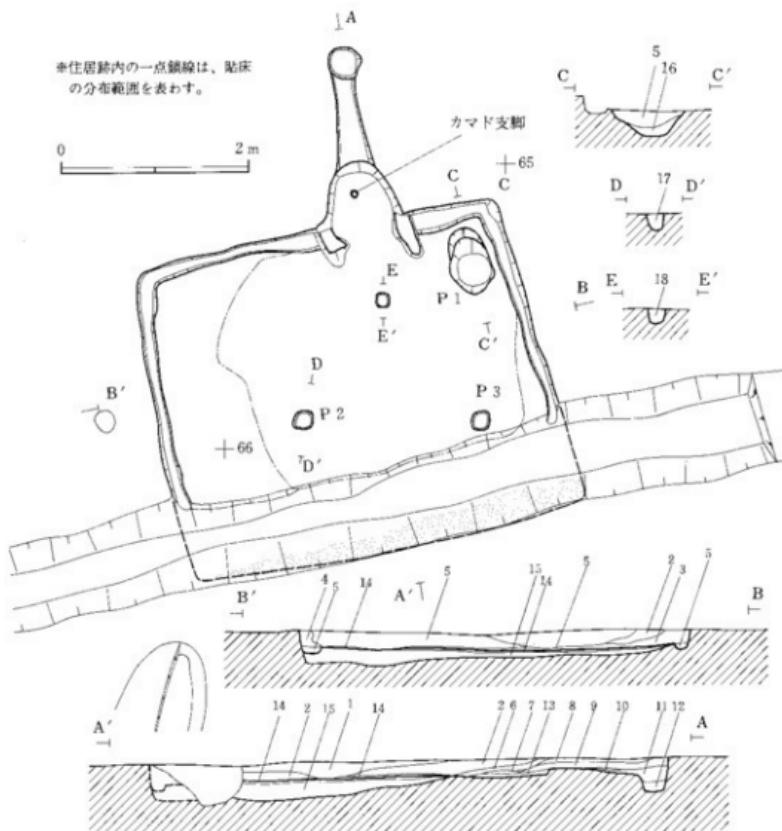
〔堆積土〕 住居跡内の堆積土は、5層に区分された。第1層は、にぶい黄褐色のシルトで、住居跡中央に皿状に堆積している。全体的にしまりがなく、やわらかい。第2層は、地山ブロックを霜降り状に混じえる暗褐色のシルトである。第1層とはほぼ同じ堆積状況を示しているが、第1層に較べるとややしまりが強い。第3層は、暗褐色のシルトで、細かな地山ブロックを中量混じている。住居跡東側に堆積しており、かたくしまりがある。第4層は、黒褐色のシルトで、北壁ぎわの一部に堆積している。第5層は、暗褐色の砂質シルトで、床面上を薄く覆っており、さらに周溝内とP1の上部を埋めている。

〔壁〕 溝によって破壊された南壁を除いて、20cm前後の高さで残存している。直立気味に立ち上がる。

〔床〕 地山掘り方を褐色のシルトで埋めたのち、さらに北側の一部を除いて、褐色の粘土質シ

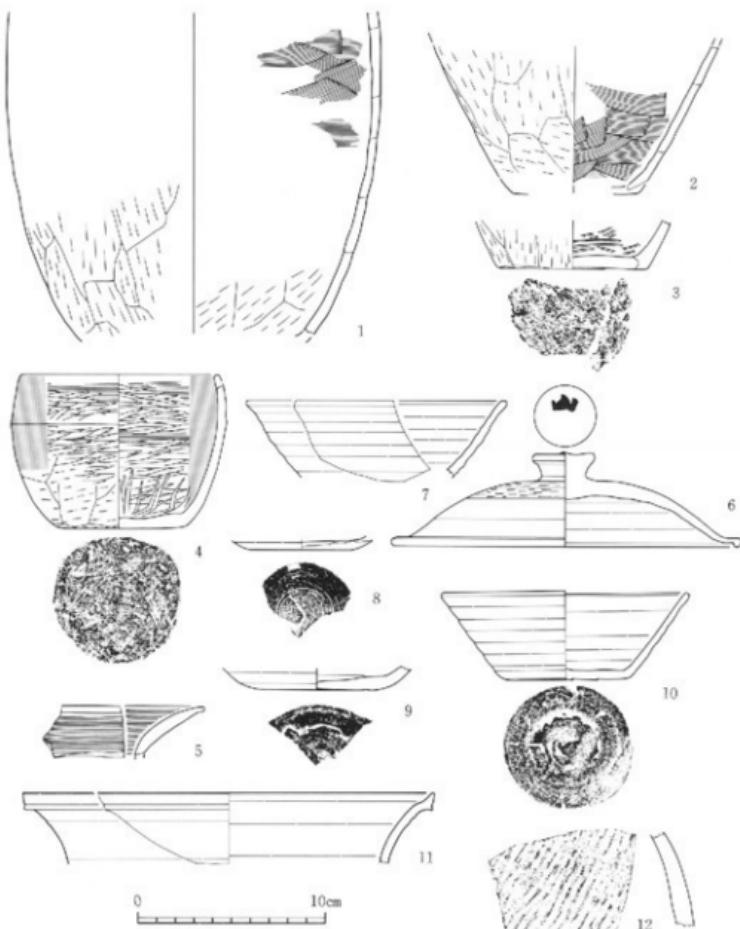


第17図 第7次調査造構配置図



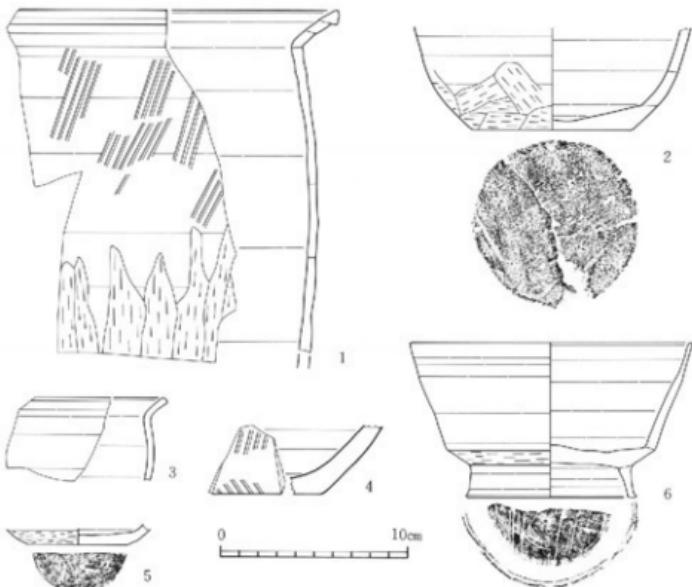
| 部位 | 地図 | 土 色                | 土 性   | 編                                     | 考 |
|----|----|--------------------|-------|---------------------------------------|---|
| 1  | 1  | 赤褐色(10 YR 4/3)     | シルト   | 細かな地山ブロックをわずかに混じる。やわらかく、しまりがない。       |   |
| 2  | 2  | 褐 色(10 YR 3/3)     | シルト   | 地山ブロックを崩壊しやすく多くに混じる。しまりがある。           |   |
| 3  | 3  | 褐 色(10 YR 3/3)     | シルト   | 細かな地山ブロックを少量含む。しまりがあり、硬い。             |   |
| 4  | 4  | 黒 色(10 YR 2/3)     | シルト   | しまりがある。北壁ぎわに分布している。                   |   |
| 5  | 5  | 褐 色(10 YR 8/1)     | 砂質シルト | 砂質でしまりがない。表面・底面を薄く覆い、さらにP1の上部に堆積している。 |   |
| 6  | 6  | 灰 色(10 YR 8/1)     | 粘 土   | 白色粘土で構成された天井部の崩落。                     |   |
| 7  | 7  | 黑 色(15 YR 3/1)     | シルト   |                                       |   |
| 8  | 8  | 黑 色(75 YR 2/2)     | シルト   | 焼土を若干混じる。                             |   |
| 9  | 9  | 黑 色(10 YR 2/2)     | シルト   |                                       |   |
| 6  | 10 | 無 水 褐 色(25 YR 3/3) | シルト   | カマド内堆積土。燒土を多量に混じる。                    |   |
|    | 11 | 無 水 褐 色(5 YR 2/3)  | シルト   | 燒土を板状に多量に混じる。                         |   |
|    | 12 | 黑 色(5 YR 2/2)      | シルト   | 燒土・炭化物を若干混じる。                         |   |
|    | 13 | 暗 茶 褐 色(25 YR 3/3) | シルト   | 燃焼部底面を覆う。燒土を多量に混じる。                   |   |
| 7  | 14 | 褐 色(10 YR 4/4)     | 粘質シルト | 住居跡床上。しまっており、かたい。                     |   |
| 8  | 15 | 褐 色(10 YR 4/4)     | シルト   | 焼成製法原理。しまりが固くやわらじい。汚れている。             |   |
| 9  | 16 | にじみ赤褐色(5 YR 4/4)   |       | P1, 下部堆積土。焼土・炭化物を多量に混じる。              |   |
| 10 | 17 | 黑 色(10 YR 2/2)     | シルト   | P1 地盤土。粘性・しまりがややある。地山ブロックを少量含む。       |   |
| 11 | 18 | 黑 色(10 YR 2/2)     | シルト   | P1 地盤土。粘性・しまりがややある。                   |   |

第18図 S191 住居跡



| No. | 種別  | 器種 | 出土<br>遺構 | 標高     | 法<br>量                     | 外<br>面  | 内<br>面  | 登録<br>No. |
|-----|-----|----|----------|--------|----------------------------|---------|---------|-----------|
|     |     |    |          |        | 器高<br>口徑<br>底径<br>口縁部      | 体<br>部  | 底<br>部  |           |
| 1   | 土師器 | 甕  | S191 床   |        |                            | ケズリ・ナデ  | ヘタナデナズリ | C-45      |
| 2   | 土師器 | 甕  | S191 床   |        |                            | ケズリ     | ヘタナデ    | C-45      |
| 3   | 土師器 | 甕  | S191 床   | (8.0)  |                            | ケズリ・ケズリ | ハケメ     | C-47      |
| 4   | 土師器 | 甕  | S191 支脚  | 6.9    | 2.2×1.7×1.5<br>1.8×1.6×1.5 | ケズリ     | ハケメ・ナズリ | C-48      |
| 5   | 土師器 | 甕  | S191 床   |        |                            | ヨコナデ    | ヨコナデ    | C-49      |
| 6   | 須恵器 | 蓋  | S191 床   | 5.0    | 18.7                       | ロクロナデ   | ロクロナデ   | B-45      |
| 7   | 須恵器 | 环  | S191 床   | (14.0) |                            | ロクロナデ   | ロクロナデ   | B-46      |
| 8   | 須恵器 | 环  | S191 床   |        | (5.6)                      | ロクロナデ   | 切込ヘラ切り  | B-47      |
| 9   | 須恵器 | 环  | S191 床   |        | (6.5)                      | ロクロナデ   | 切込ヘラ切り  | B-48      |
| 10  | 須恵器 | 环  | S191 床   | 4.7    | 13.2 6.7                   | ロクロナデ   | ロクロナデ   | B-49      |
| 11  | 須恵器 | 甕  | S191 床   | (22.0) |                            | ロクロナデ   | ロクロナデ   | B-50      |
| 12  | 須恵器 | 甕  | S191 床   |        |                            | 平行凹キメ   | ナデ      | B-51      |

第19図 S191住居跡出土遺物（1）

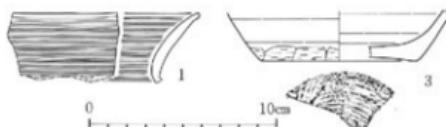
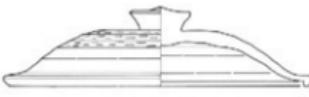


| No | 種別  | 器種 | 出土<br>遺構 | 測<br>量 | 外<br>面 |        |     | 内<br>面 |                 |       | 登<br>録<br>No |
|----|-----|----|----------|--------|--------|--------|-----|--------|-----------------|-------|--------------|
|    |     |    |          |        | 器高     | 口径     | 底径  | 口縁部    | 体部              | 底部    |              |
| 1  | 土師器 | 壺  | S191     | 9      |        |        |     | ロクロナデ  | ロクロナデ           | ロクロナデ | D-11         |
| 2  | 土師器 | 壺  | S191     | 9      |        | 8.7    |     | 平縁ケズリ  | ケズリ             | ロクロナデ | D-12         |
| 3  | 土師器 | 壺  | S191     | 9      |        |        |     | ロクロナデ  | ロクロナデ           | ロクロナデ | D-13         |
| 4  | 須恵器 | 壺  | S191     | 9      |        |        |     | 平行切口メ  | ケズリ             | ロクロナデ | E-52         |
| 5  | 須恵器 | 壺? | S191     | 9      |        | (5.2)  |     | 下輪動ケズリ | 下輪動ケズリ<br>平縁ケズリ | ロクロナデ | E-53         |
| 6  | 須恵器 | 壺  | S191     | 9      | 8.3    | (15.1) | 9.1 | ロクロナデ  | リニアケズリ<br>斜止合切り | ロクロナデ | E-54         |

第20図 S191住居跡出土遺物（2）

ルトを貼ることにより、床としている、このため床面は、貼り床を施した部分と、掘り方埋土の上面をそのまま床面にした部分とに分けられる。前者はかたくしまってい  
るが、後者はやわらかくしま  
りがない。全体的にみれば、凹凸  
が無く、平坦な床面である。

〔柱穴〕 認められない。



| No | 種別  | 器種 | 出土<br>遺構 | 測<br>量 | 外<br>面 |       |    | 内<br>面          |                 |       | 登<br>録<br>No |
|----|-----|----|----------|--------|--------|-------|----|-----------------|-----------------|-------|--------------|
|    |     |    |          |        | 器高     | 口径    | 底径 | 口縁部             | 体部              | 底部    |              |
| 1  | 土師器 | 壺  | S191     | 2      |        |       |    | ロコナデ            |                 | ロコナデ  | C-50         |
| 2  | 須恵器 | 壺  | S191     | 2      | 4.3    | 16.5  |    | ロクロナデ           | ロクロナデ           | ロクロナデ | E-55         |
| 3  | 須恵器 | 壺  | S191     | 2      |        | (8.2) |    | リニアケズリ<br>斜止合切り | リニアケズリ<br>斜止合切り | ロクロナデ | E-56         |

第21図 S191住居跡出土遺物（3）

〔カマド〕 カマド

は、東壁やや南寄りに付設されている。粘土積み上げ側壁による燃焼部と細長い煙道部からなる。天井部は既に崩落していたが、全体に遺存状況は良好であった。

燃焼部の規模は、幅1.0m、奥行1.1m。底面は平坦である。中央には、土師器壺を倒立させた支柱が据えられており、その周囲には、土師器壺の体部片がさし

第7表 SI 91住居跡出土遺物破片集計表

| 種別 | 器種    | 部位    | 器     | 皿   | 説 | 収 | 器 No |   |       |    |    |    | 計     |    |
|----|-------|-------|-------|-----|---|---|------|---|-------|----|----|----|-------|----|
|    |       |       |       |     |   |   | 1    | 2 | 6(底面) | 9  | 13 | P2 | 7(側面) |    |
| 土  | 口縁部   | ロクロナダ | 皿     |     |   | 1 |      |   |       |    |    |    |       | 1  |
|    | 口縁部   | ヨコナダ  | ヨコナダ  |     |   | 1 |      |   |       |    |    |    |       | 1  |
|    | 不規則   | 明     | ヨコナダ  |     |   | 1 |      |   |       |    |    |    |       | 1  |
|    | 頸部    | ヨコナダ  | ヨコナダ  |     |   | 1 |      |   |       |    |    |    |       | 1  |
|    | 頸~体部  | ヨコナダ  | ヨコナダ  |     |   | 1 |      |   |       |    |    |    |       | 1  |
|    | ケズリ   | ハゲメ   |       |     |   | 5 |      |   |       |    |    |    |       | 9  |
|    | ケズリ   | ヘナダ   |       |     |   | 6 | 1    | 1 |       |    |    |    |       | 8  |
|    | ケズリ   | ナ     |       |     |   |   |      |   |       |    |    |    |       | 3  |
|    | ケズリ   | 不規則   |       |     |   | 5 |      |   |       |    |    |    |       | 7  |
|    | ナ     | デナ    | デ     |     |   |   |      |   |       |    |    |    |       | 4  |
| 器  | 体部    | デナ    | ヘナダ   |     |   |   |      |   |       |    |    |    |       | 1  |
|    | ケズリ   | 不規則   |       |     |   |   |      |   |       |    |    |    |       | 1  |
|    | ロクロナダ | ロクロナダ |       |     |   |   |      |   |       |    |    |    |       | 1  |
|    | ロライナダ | ラクダ   |       |     |   |   |      |   |       |    |    |    |       | 1  |
|    | ケズリ   | ロクロナダ |       |     |   |   |      |   |       |    |    |    |       | 2  |
|    | ヒタクナダ | ロクロナダ |       |     |   |   |      |   |       |    |    |    |       | 1  |
|    | ロクロナダ | ロクロナダ |       |     |   |   |      |   |       |    |    |    |       | 3  |
|    | ロクロハメ | ロクロハメ |       |     |   | 1 |      |   |       |    |    |    |       | 1  |
|    | 平行形   | トメナ   | デ     |     |   |   |      |   |       |    |    |    |       | 1  |
|    | 体~底部  | ケズリ   | ヘナダ   |     |   |   |      |   |       |    |    |    |       | 1  |
| 頂部 | 合     |       | 計     | 2   | 3 |   | 22   | 1 | 9     | 11 | 3  | 51 |       |    |
|    | 口縁部   | ロクロナダ | ロクロナダ |     |   | 4 |      |   |       |    |    |    |       | 6  |
|    | 體     | 平行形   | トメナ   | デ   | 1 |   |      |   |       |    |    |    |       | 1  |
|    | 部     | 平行形   | トメナ   | 不規則 |   |   |      |   |       |    |    |    |       | 1  |
|    | 不規則   | 不規則   | 明     |     |   | 1 | 1    |   |       |    |    |    |       | 1  |
| 合  | 合     |       | 計     | 1   | 1 | 6 |      |   |       |    | 2  | 10 |       | 61 |
|    | 總     |       | 計     |     |   |   |      |   |       |    |    |    |       | 61 |

これより、支脚の安定がはかられている。煙道部とは、落差10cmの段によって区画されているが、この段は、住居壁の延長線上から、60cmほど住居外へ張り出したところにある。煙道部は、この段からさらに90cm外側へ伸びており、先端に掘られた煙出しのピットに連結する。ピットは、径30cmの円形で、30cmの深さがある。

〔周溝〕 壁沿いに巡り、全周する。ただし、西辺については、遺存状況がきわめて悪く、部分的な確認に留まった。幅10cm～20cm。床面からの深さは、5cm～8cmある。底面は、カマドに近づくにしたがって、次第にレベルが下がって行く。断面形は、U字形をなす。

〔ピット〕 計4基検出された。規模の点から、大型のP1と、小型のP2～P4に区別される。

P1は、住居跡南東隅にあり、東西にやや長い隋円形を呈している。このような状況から、このピットは貯蔵穴と考えられる。規模は、長軸70cm、短軸40cm。床面からの深さは、30cmを測る。堆積土は、上部が前述した第5層に覆われており、下部には、焼土と炭を多量に混じえるにぶい黄褐色のシルトが堆積している。

P2～P4は、方形を呈する小型のピットである。径は15cm～20cm。床面からの深さは、15cm～20cmを測る。それぞれのピット間の配置には、規則性は認められない。堆積土は単層で、黒褐色のシルトが堆積している。

〔出土遺物〕 床面上とカマド煙道部内堆積土から、まとまって出土した。うちわけは、土師器

壺・甕、須恵器壺・高台付壺・蓋・甕である(第19・20図)。

第19図6の須恵器壺と第21図2の須恵器蓋の外側には、判読不明の墨書が観察される。

### S I 96住居跡

調査区南辺で検出した。大半は、調査区外にある。北側の一部は、SK 110土壤による破壊を受けており、また全体の削平も著しい。壁は最も保存の良いところでも、わずかに5cmしか残っていない。床面は、貼床されている。検出された範囲内では、周溝・柱穴等の施設は確認されなかった。出土遺物は、無い。

### S D 103溝

この溝は掘り直しが行われており、新旧の2時期に区別された。そこで、古いものをS D 103 A溝、新しいものをS D 103B溝として、説明を加える。

(確認面) 地山面で確認した。

(方向) 調査区の東側をやや西に振れて東西に走り、北端で東へ向かって直角に折れまがっている。方位は、南北方向で座標北に対し、西に12°振れている。

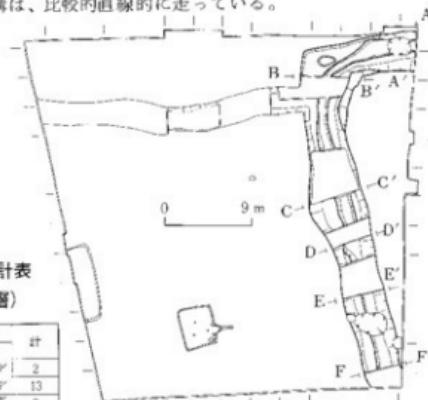
S D 103A溝は、残存していた壁の状況からみると、かなり蛇行して走っていたと考えられ、これに対して、掘り直されたS D 103B溝は、比較的直線的に走っている。

(規模) 今回の調査区内では、南北方向で36.5m、東西方向で11.0mが検出された。溝は、さらに東方向と南方向で調査区外へ伸びている。

(堆積土) 向溝は、自然堆積で埋まっている。

第8表 S D 103B溝出土造物片集計表  
(灰白上層)

| 種別    | 器種   | 部位     | 露 出 面 |     | 計 |
|-------|------|--------|-------|-----|---|
|       |      |        | 外 面   | 内 面 |   |
| 土 器   | 口縁部  | ヨコナデ   | ヨコナデ  | 2   |   |
|       | ケスリ  | リーハラナデ | 13    |     |   |
|       | ケズリ  | リーハラナデ | 2     |     |   |
|       | ヨコナデ | ヨコナデ   | 1     |     |   |
|       | ケズリ  | リーハラナデ | 2     |     |   |
|       | 不 明  | 不 明    | 1     |     |   |
| 合 計   |      |        | 21    |     |   |
| 須 惠 器 | 口縁部  | ロクロナデ  | ロクロナデ | 1   |   |
|       | 体 部  | ロクロナデ  | ロクロナデ | 1   |   |
|       | 体～底部 | ロクロナデ  | ロクロナデ | 1   |   |
|       | 底部   | ロクロナデ  | ロクロナデ | 2   |   |
|       | 天井部  | ロクロナデ  | ロクロナデ | 2   |   |
|       | 甕    | ロクロナデ  | ロクロナデ | 1   |   |
| 甕     | 体 部  | 平行印キメニ | メニ    | 2   |   |
|       | 底部   | ロクロナデ  | ロクロナデ | 2   |   |
|       | 合 計  |        |       | 10  |   |
| 總 計   |      |        | 31    |     |   |



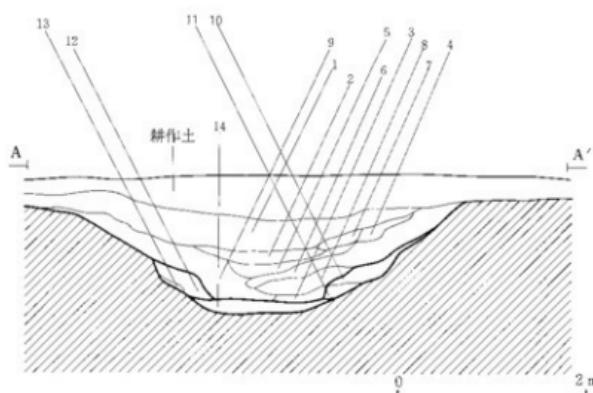
第22図 S D 103溝

このうち、新しい段階のS D 103B溝の堆積土中には、10世紀前半に降下したとみられる灰白色火山灰層(庄子・山田: 1979.3他)が厚く堆積していることから、この溝はこの時期にはまだ完全に埋まりきっておらず、凹みの状態として残っていたことが知られる。

第9表 SD103B溝出土遺物破片集計表（灰白下層）

なお、この火山灰層の下層に堆積した土層の色調は、西側と北側から流入したもののが、全体的に暗い傾向にあるが、これは、溝を掘りあげた際に置いた土が、時間の経過と共に溝のなかへ再び流れ込んだ結果と思われる。

〔底面・壁〕両溝の底面は、平坦である。ただし、新しいSD103B溝の底面は、当初のSD103A溝より、一段深い。また、右葉筋におけるものと左葉におけるものに對し、新しい



| 層位 | 編 | 土色           | 土質  | 備考            |
|----|---|--------------|-----|---------------|
| 1  | 1 | 黒褐色(10YR2/1) | シルト |               |
| 2  | 2 | 灰白色(10YR8/1) | 灰山灰 |               |
| 3  | 3 | 灰褐色(10YR4/1) | シルト |               |
| 4  | 4 | 黒褐色(10YR3/1) | シルト | SD 103 B地積土。  |
|    | 5 | 黒褐色(10YR3/1) | シルト |               |
|    | 6 | 暗褐色(10YR3/3) | シルト |               |
| 4  | 7 | 黒褐色(10YR3/2) | シルト | 層知より、やや黒味が強い。 |
| 8  | 8 | 黒褐色(10YR3/1) | シルト |               |
| 9  | 9 | 黒褐色(10YR3/1) | シルト |               |

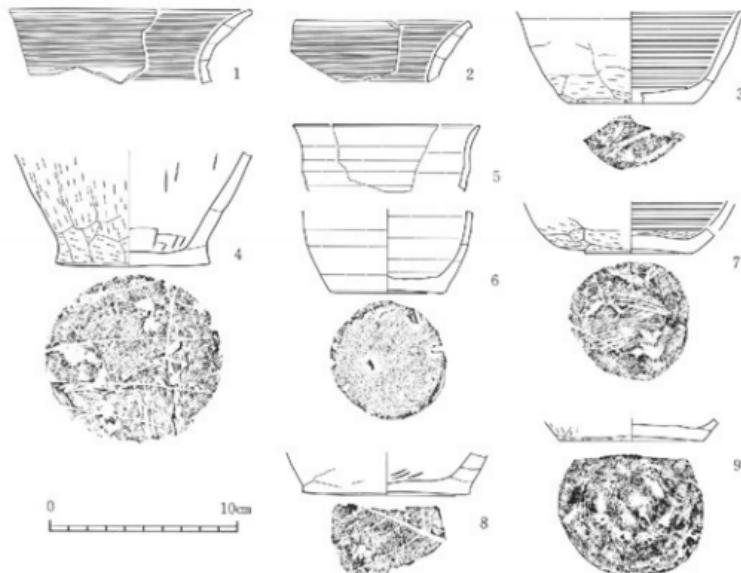
  

| 層位 | 編  | 土色           | 土質  | 備考           |
|----|----|--------------|-----|--------------|
| 1  | 10 | 暗褐色(10YR3/3) | シルト |              |
| 2  | 11 | 褐色(10YR4/4)  | シルト | SD 103 A堆積土。 |
| 3  | 12 | 暗褐色(10YR3/2) | シルト | しまっており、かたい。  |
| 4  | 13 | 黒褐色(10YR2/2) | シルト |              |

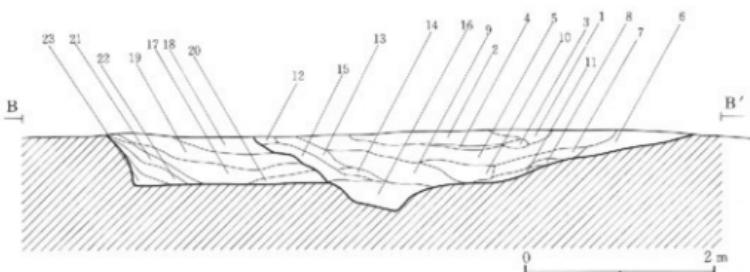
| 層位 | 編  | 土色             | 土質  | 備考                            |
|----|----|----------------|-----|-------------------------------|
| 1  | 14 | 泥炭質褐色(10YR4/3) | シルト | SK 106 堆積上。人为堆積土。地山大粒を多量に混じる。 |

第23図 SD 103溝 (1)



| No. | 種別  | 器種 | 出土遺構    | 器高  | 底径     | 底形 | 外縁部   | 体部    | 底面 | 内縁部   | 体部    | 底面 | 参考   |
|-----|-----|----|---------|-----|--------|----|-------|-------|----|-------|-------|----|------|
| 1   | 土師器 | 甕  | SD 103B | 5.7 |        |    | ヨコナデ  |       |    | ヨコナデ  |       |    | C-51 |
| 2   | 土師器 | 甕  | SD 103B | 5.7 |        |    | ヨコナデ  |       |    | ヨコナデ  |       |    | C-52 |
| 3   | 土師器 | 甕  | SD 103B | 5.7 | (6.5)  |    | ヨコナデ  | 静止糸切り |    | 回転ハケメ | 回転ハケメ |    | D-14 |
| 4   | 土師器 | 甕  | SD 103B | 5.7 | 8.2    |    | ケズリ   | 木 薙面  |    | ヘラナデ  | ヘラナデ  |    | C-53 |
| 5   | 土師器 | 甕  | SD 103B | 5.7 | (16.0) |    | ロクロナデ | ロクロナデ |    | ロクロナデ | ロクロナデ |    | D-15 |
| 6   | 土師器 | 甕  | SD 103B | 5.7 | 6.3    |    | ロクロナデ | 静止糸切り |    | ロクロナデ | ロクロナデ |    | D-16 |
| 7   | 土師器 | 甕  | SD 103B | 5.7 | 6.9    |    | ヨコナデ  | 静止糸切り |    | 回転ハケメ | ミガキ   |    | D-17 |
| 8   | 土師器 | 甕  | SD 103B | 5.7 | (9.0)  |    | ケズリ   | 木 薙面  |    |       |       |    | C-54 |
| 9   | 土師器 | 甕  | SD 103B | 5.7 | 7.6    |    | ケズリ   | ヨコナデ  |    | ロクロナデ | ロクロナデ |    | D-18 |

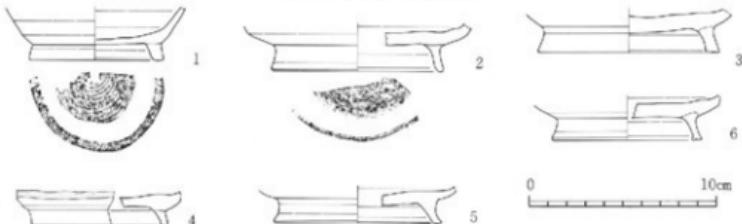
第24図 SD 103B 溝出土遺物 (1)



| 剖位 | 層番 | 土色              | 土質    | 備考              |
|----|----|-----------------|-------|-----------------|
| 1  | 1  | 暗褐色(10YR3/3)    | シルト   |                 |
| 2  | 2  | 黒褐色(10YR2/1)    | シルト   | しまりがなく、やわらかい。   |
|    | 3  | 暗褐色(10YR3/3)    | シルト   |                 |
| 2  | 4  | 灰白色(10YR1/1)    | 火山灰   | 灰白色火山灰層。        |
|    | 5  | 暗褐色(10YR3/3)    | シルト   |                 |
|    | 6  | にじみ黄褐色(10YR3/3) | シルト   | 内れている。          |
|    | 7  | 褐色(10YR4/4)     | シルト   |                 |
|    | 8  | 褐色(10YR4/4)     | シルト   |                 |
| 3  | 9  | 黒褐色(10YR2/2)    | シルト   | SD 103B堆積土。     |
|    | 10 | 黒褐色(10YR3/3)    | シルト   |                 |
|    | 11 | 褐色(10YR4/4)     | シルト   |                 |
|    | 12 | 暗褐色(10YR3/4)    | シルト   |                 |
|    | 13 | 黒褐色(10YR2/2)    | シルト   |                 |
|    | 14 | 暗褐色(10YR3/4)    | シルト   |                 |
| 4  | 15 | にじみ黄褐色(10YR4/3) | シルト   | 砂礫粒を若干混じる。      |
|    | 16 | 暗褐色(10YR3/3)    | 砂質シルト | 砂礫粒を多量に混じる。かたい。 |

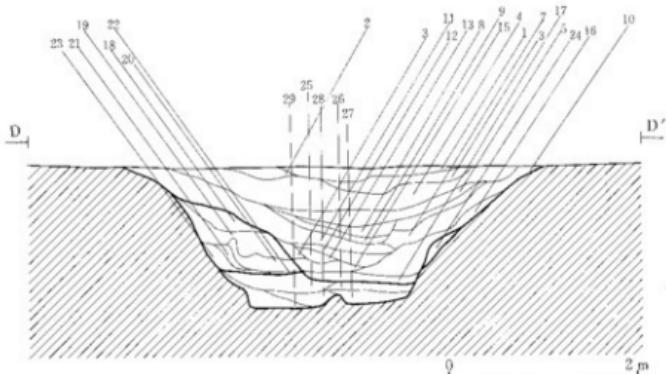
| 剖位 | 層番 | 土色                | 土質  | 備考          | 考                         |
|----|----|-------------------|-----|-------------|---------------------------|
| 1  | 17 | IC5A・暗褐色(10YR4/3) | シルト |             |                           |
| 2  | 18 | 黒褐色(75YR3/1)      | シルト |             |                           |
| 3  | 19 | 灰黃褐色(70YR4/2)     | シルト |             |                           |
|    | 20 | IC5A・暗褐色(10YR4/3) | シルト | SD 103A堆積土。 | 色調の明るい上層と暗い下層とが交差に堆積している。 |
|    | 21 | 黒褐色(75YR3/1)      | シルト |             |                           |
| 5  | 22 | 褐色(10YR4/4)       | シルト |             | 壁の崩落土。                    |
| 7  | 23 | IC5A・黄褐色(10YR5/4) | シルト |             | 壁の崩落土。                    |

第25図 SD 103溝 (2)



| No. | 種別  | 器種 | 出土状況                     | 層番 | 法 番 |       |    | 外 表   |       |     | 内 表   |       |        | 登録No. |
|-----|-----|----|--------------------------|----|-----|-------|----|-------|-------|-----|-------|-------|--------|-------|
|     |     |    |                          |    | 高さ  | 口径    | 底径 | 口縁部   | 体 部   | 底 部 | 口縁部   | 体 部   | 底 部    |       |
| 1   | 須恵器 | 盤  | SD 103B <sup>高</sup> 7.0 |    |     | 7.3   |    | コクロナテ | 四輪系切り |     | コクロナテ | コクロナテ | E - 57 |       |
| 2   | 須恵器 | 盤  | SD 103B <sup>高</sup> 7.0 |    |     | 9.2   |    | コクロナテ | 四輪系切り |     | コクロナテ | コクロナテ | E - 58 |       |
| 3   | 須恵器 | 盤  | SD 103B <sup>高</sup> 7.0 |    |     | (9.7) |    | コクロナテ | 四輪系切り |     | コクロナテ | コクロナテ | E - 59 |       |
| 4   | 須恵器 | 盤  | SD 103B <sup>高</sup> 7.0 |    |     |       |    | コクロナテ | 四輪系切り |     | コクロナテ | コクロナテ | E - 60 |       |
| 5   | 須恵器 | 盤  | SD 103B <sup>高</sup> 7.0 |    |     | (9.0) |    | コクロナテ | 四輪系切り |     | コクロナテ | コクロナテ | E - 61 |       |
| 6   | 須恵器 | 盤  | SD 103B <sup>高</sup> 7.0 |    |     | (8.0) |    | コクロナテ | 四輪系切り |     | コクロナテ | コクロナテ | E - 62 |       |

第26図 SD 103B溝出土遺物 (2)



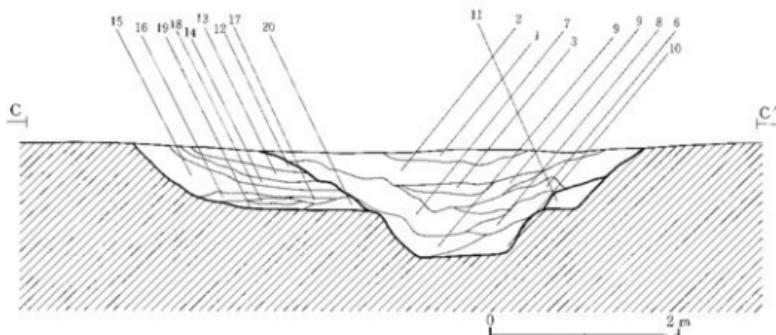
| 層位 | 図面 | 土 色          | 土 質 | 備考                                  |
|----|----|--------------|-----|-------------------------------------|
| 1  | 1  | 赤褐色(10YR4/3) | シルト |                                     |
|    | 2  | 暗褐色(10YR3/3) | シルト |                                     |
| 2  | 3  | 深褐色(10YR3/2) | シルト |                                     |
|    | 4  | 黒褐色(10YR2/2) | シルト |                                     |
| 3  | 5  | 灰白色(10YR8/1) | 火山灰 |                                     |
|    | 6  | 黒褐色(10YR3/1) | シルト |                                     |
|    | 7  | 暗灰色(10YR4/1) | シルト |                                     |
|    | 8  | 深褐色(10YR3/1) | シルト |                                     |
|    | 9  | 暗褐色(10YR2/3) | シルト | SD103B堆積土。東側流入土の色調は明るく、西側流入土の色調は暗い。 |
|    | 10 | 褐色(10YR4/4)  | シルト |                                     |
| 4  | 11 | 暗褐色(10YR3/3) | シルト |                                     |
|    | 12 | 黒褐色(10YR3/1) | シルト |                                     |
|    | 13 | 暗褐色(10YR3/3) | シルト |                                     |
|    | 14 | 褐色(10YR4/3)  | シルト |                                     |
|    | 15 | 深褐色(10YR3/1) | シルト |                                     |
|    | 16 | 褐色(10YR4/2)  | シルト |                                     |
|    | 17 | 明褐色(10YR5/6) | シルト |                                     |

| 層位 | 図面 | 土 色           | 土 質 | 備考         |
|----|----|---------------|-----|------------|
| 1  | 18 | 黒褐色(10YR3/2)  | シルト |            |
| 2  | 19 | 黒褐色(7.5YR3/1) | シルト |            |
| 3  | 20 | 褐色(10YR4/3)   | シルト |            |
| 4  | 21 | 暗褐色(10YR5/6)  | シルト | SD103A堆積土。 |
| 5  | 22 | 黒褐色(10YR3/1)  | シルト |            |
| 6  | 23 | 褐色(10YR4/3)   | シルト |            |
|    | 24 | 褐色(10YR4/3)   | シルト |            |

| 層位 | 図面 | 土 色          | 土 質 | 備考                           |
|----|----|--------------|-----|------------------------------|
| 1  | 25 | 褐色(10YR4/6)  | シルト |                              |
|    | 26 | 褐色(10YR4/3)  | シルト |                              |
|    | 27 | 黒褐色(10YR2/2) | シルト | SK106堆積土。人為堆積土。地山ブロックを多量に含む。 |
| 2  | 28 | 黒褐色(10YR2/2) | シルト |                              |
|    | 29 | 黒褐色(10YR2/2) | シルト |                              |

第27図 SD 103溝 (3)

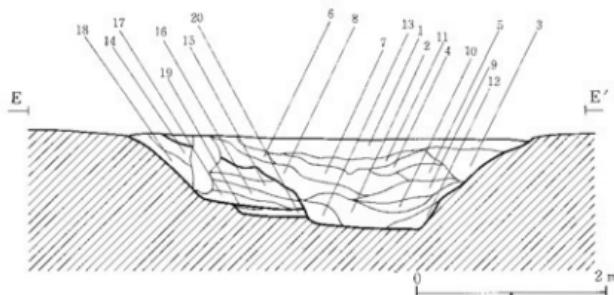
(出土遺物) SD 103A溝からの遺物はきわめて少なく、須恵器壺の体部片1点が出土したにすぎない。一方、SD 103B溝からは、灰白色火山灰層の下層で、須恵器を主体とする多量の遺物が出土した(第24・26・31~36図)。なかでも、須恵器壺の量は最も多く、全体の器形の判明するものだけでも、17点ある。



| 層位 | 層名   | 土色          | 土質  | 備考                        |
|----|------|-------------|-----|---------------------------|
| 1  | 1 地  | 色(75YR 4/3) | シルト |                           |
| 2  | 2 黒  | 色(10YR 2/1) | シルト | やわらかく、しまりがない。             |
| 2  | 3 灰  | 白(10YR 8/1) | 火山灰 | 灰白色火山灰質。                  |
| 3  | 4 黒  | 褐(10YR 3/1) | シルト |                           |
| 4  | 5 地  | 色(10YR 4/3) | シルト | SD 103 B堆積土。              |
| 6  | 6 地  | 色(75YR 4/3) | シルト |                           |
| 7  | 7 黒  | 褐(10YR 3/1) | シルト | 東側流入土の色調は明るく、西側流入土の色調は暗い。 |
| 8  | 8 地  | 色(75YR 4/3) | シルト |                           |
| 9  | 9 黒  | 色(10YR 3/3) | シルト | 砂礫粒を多量に混じる。               |
| 10 | 10 路 | 褐(75YR 3/4) | シルト |                           |

| 層位 | 層名   | 土色            | 土質  | 備考                                     |
|----|------|---------------|-----|--|
| 1  | 11 黒 | 色(10YR 5/6)   | シルト |  |
| 2  | 12 地 | 色(10YR 4/4)   | シルト | 砂礫粒を多量に含む。                             |
| 3  | 13 黒 | 褐(10YR 3/1)   | シルト |  |
| 4  | 14 地 | 色(10YR 4/4)   | シルト |  |
| 5  | 15 黒 | 褐(10YR 2/2)   | シルト | SD 103 A堆積土。色調の明るい上層と暗い下層とか、交互に堆積している。 |
| 6  | 16 地 | 色(75YR 4/4)   | シルト |  |
| 7  | 17 地 | 色(10YR 4/4)   | シルト | 地山ブロックを多量に含む。                          |
| 8  | 18 黒 | 褐(10YR 3/1)   | シルト |  |
| 9  | 19 地 | 淡褐色(10YR 4/3) | シルト |  |
| 10 | 20 黒 | 褐(10YR 3/1)   | シルト |  |

第28図 SD 103溝 (4)

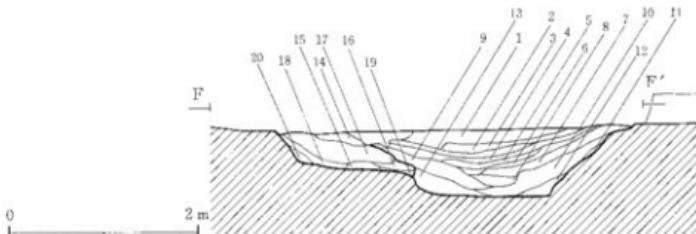


| 部位 | 順位 | 土色               | 土質  | 備考                                     |
|----|----|------------------|-----|--|
| 1  | 1  | 黒褐色(10YR 2/2)    | シルト |  |
| 2  | 2  | 灰白色(10YR 8/1)    | 火山灰 | やわらかく、しまりがない。<br>灰白色火山灰層。              |
| 3  | 3  | にじみ黄褐色(10YR 4/3) | シルト |  |
| 4  | 4  | にじみ黄褐色(10YR 3/2) | シルト |  |
|    | 5  | にじみ黄褐色(10YR 4/3) | シルト |  |
| 4  | 6  | 黒褐色(10YR 3/2)    | シルト | S D 103 B堆積土。東側流入土の色調は明るく、西側流入土の色調は暗い。 |
| 7  | 7  | 黒褐色(10YR 3/1)    | シルト |  |
| 8  | 8  | 黒褐色(10YR 3/2)    | シルト |  |
| 9  | 9  | にじみ黄褐色(10YR 4/3) | シルト |  |
| 10 | 10 | にじみ黄褐色(10YR 4/3) | シルト |  |
| 11 | 11 | 黒褐色(10YR 4/1)    | シルト |  |
| 12 | 12 | 褐色(10YR 4/4)     | シルト |  |
| 13 | 13 | にじみ黄褐色(10YR 4/3) | シルト |  |

| 部位 | 順位 | 土色             | 土質  | 備考            |
|----|----|----------------|-----|---------------|
| 1  | 14 | 褐色(10YR 4/4)   | シルト | 汚れている。        |
| 2  | 15 | 黒褐色(10YR 3/1)  | シルト |               |
| 3  | 16 | 灰黃褐色(10YR 4/2) | シルト | S D 103 A堆積土。 |
| 4  | 17 | 黒褐色(10YR 4/1)  | シルト |               |
| 5  | 18 | 黒褐色(10YR 3/1)  | シルト |               |

| 部位 | 順位 | 土色            | 土質  | 備考                               |
|----|----|---------------|-----|----------------------------------|
| 1  | 19 | 暗褐色(10YR 3/3) | シルト | SK 108 堆積上。入為堆積土。地山ブロックを多量に混じえる。 |
| 2  | 20 | 黒褐色(10YR 2/2) | シルト | 入為堆積土。地山ブロックを多量に混じえる。            |

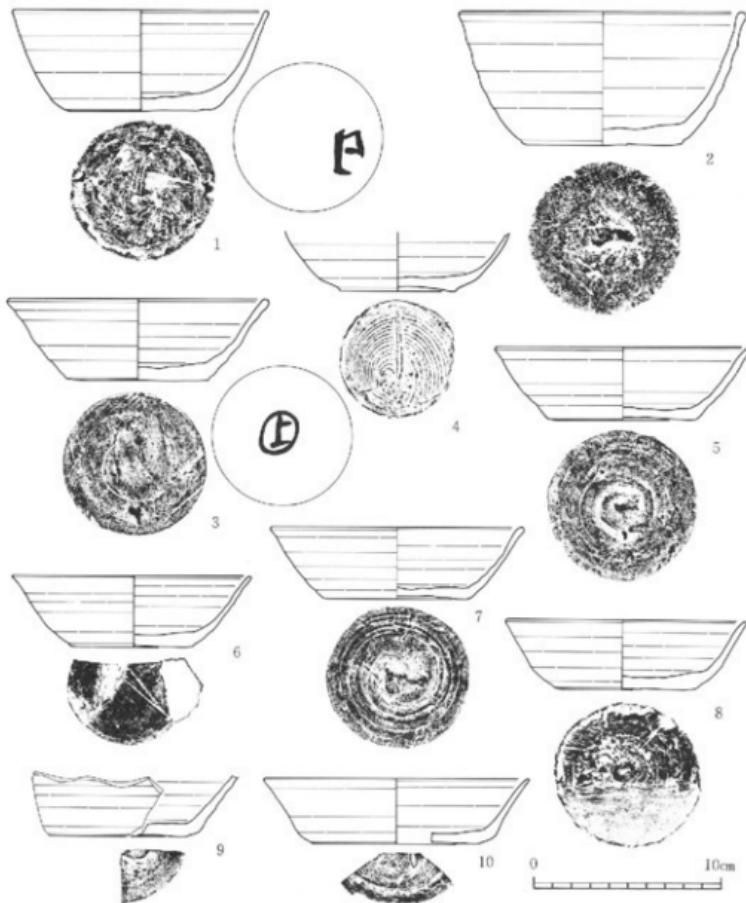
第29図 S D 103溝 (5)



| 部位 | 順位 | 土色               | 土質  | 備考                           |
|----|----|------------------|-----|------------------------------|
| 1  | 1  | にじみ黄褐色(10YR 4/3) | シルト |                              |
| 2  | 2  | 褐色(10YR 4/4)     | シルト | 地山ブロックを多量に混じる。               |
| 3  | 3  | 暗褐色(10YR 3/4)    | シルト |                              |
| 4  | 4  | にじみ黄褐色(10YR 5/3) | シルト |                              |
| 5  | 5  | にじみ黄褐色(10YR 4/3) | シルト |                              |
| 6  | 6  | 褐色(10YR 3/3)     | シルト | 地山ブロックを多量に混じる。地山ブロックを多量に混じる。 |
| 7  | 7  | にじみ黄褐色(10YR 4/3) | シルト | 地山ブロックを多量に混じる。地山ブロックを多量に混じる。 |
| 8  | 8  | 褐色(10YR 3/4)     | シルト |                              |
| 9  | 9  | にじみ黄褐色(10YR 4/3) | シルト |                              |
| 10 | 10 | にじみ黄褐色(10YR 4/3) | シルト | 層No.9に較べて、色調がやや明るい。          |
| 11 | 11 | にじみ黄褐色(10YR 4/3) | シルト | 層No.10に較べて、色調がやや暗い。          |
| 12 | 12 | にじみ黄褐色(10YR 4/3) | シルト |                              |
| 13 | 13 | にじみ黄褐色(10YR 5/3) | シルト |                              |

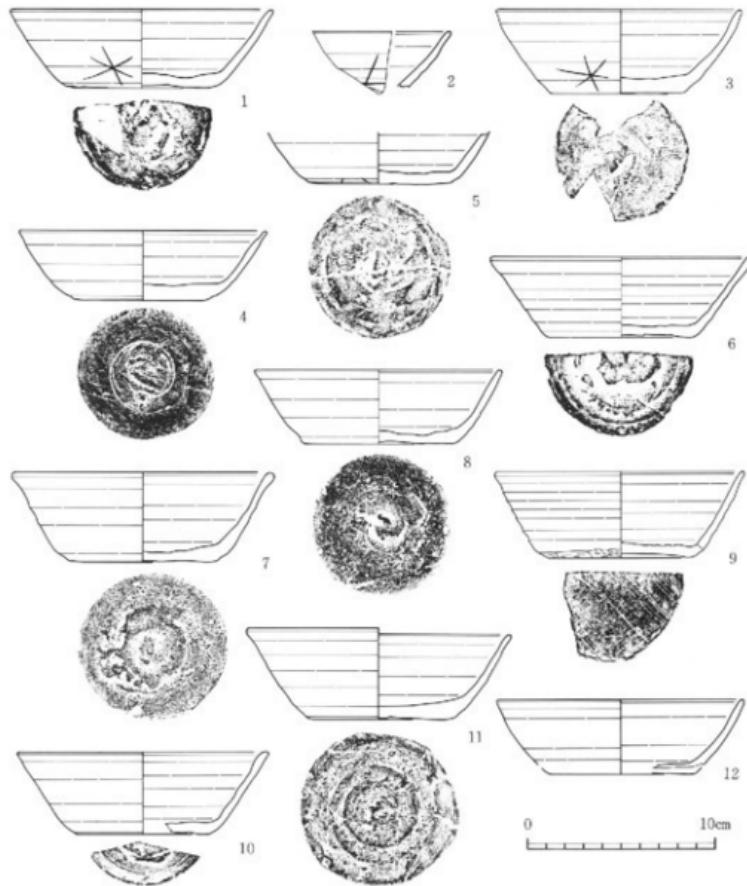
| 部位 | 順位 | 土色               | 土質  | 備考            |
|----|----|------------------|-----|---------------|
| 1  | 14 | 暗褐色(10YR 3/3)    | シルト |               |
| 2  | 15 | 黒褐色(10YR 3/1)    | シルト |               |
| 3  | 16 | 黒褐色(10YR 3/1)    | シルト |               |
| 4  | 17 | にじみ黄褐色(10YR 5/3) | シルト | S D 103 A堆積土。 |
| 5  | 18 | 黒褐色(10YR 3/1)    | シルト |               |
| 6  | 19 | 褐色(10YR 4/4)     | シルト |               |
| 7  | 20 | にじみ黄褐色(10YR 4/3) | シルト |               |

第30図 S D 103溝 (6)



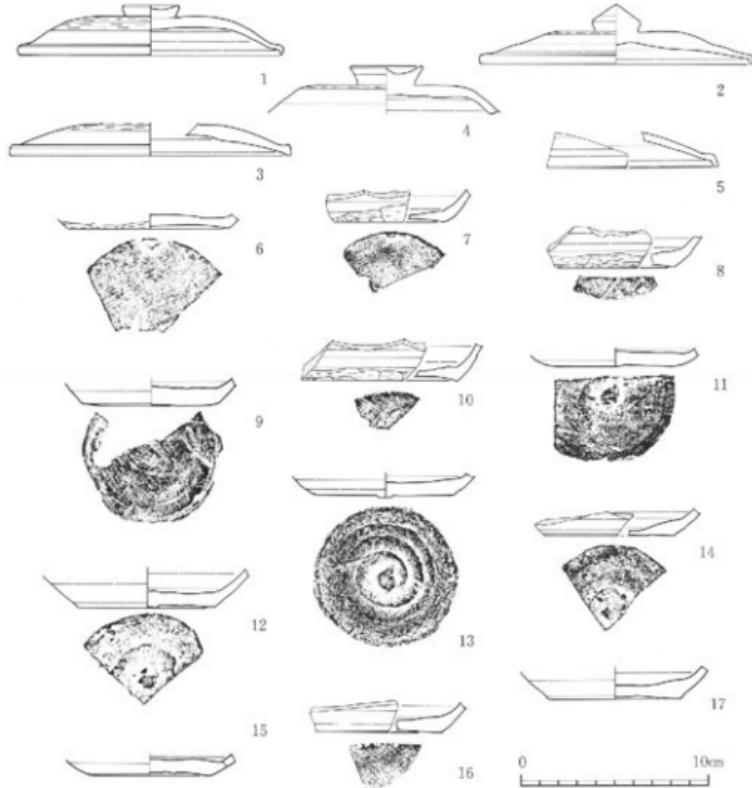
| No. | 種別  | 器種 | 出土<br>遺構               | 測定<br>箇所 | 法<br>面 |        | 外<br>面 |       | 内<br>面 |        | 登録<br>No. |       |      |
|-----|-----|----|------------------------|----------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|-----------|-------|------|
|     |     |    |                        |          | 器高     | 口径     | 底径     | 口縁部   | 体      | 脚      |           |       |      |
| 1   | 須恵器 | 环  | SD103B <sup>3-1</sup>  |          | 5.4    | 13.7   | 8.0    | ロクロナデ | ロクロナデ  | ヘア切リナデ | ロクロナデ     | ロクロナデ | E-63 |
| 2   | 須恵器 | 环  | SD103B <sup>3-2</sup>  |          | 7.2    | 15.3   | 8.4    | ロクロナデ | ロクロナデ  | ヘア切リ   | ロクロナデ     | ロクロナデ | E-64 |
| 3   | 須恵器 | 环  | SD103B <sup>3-3</sup>  |          | 4.4    | 14.0   | 7.6    | ロクロナデ | ロクロナデ  | ヘア切リナデ | ロクロナデ     | ロクロナデ | E-65 |
| 4   | 須恵器 | 环  | SD103B <sup>3-4</sup>  |          |        |        | 6.2    | ロクロナデ | ロクロナデ  | 間軸無切り  | ロクロナデ     | ロクロナデ | E-66 |
| 5   | 須恵器 | 环  | SD103B <sup>3-5</sup>  |          | 3.9    | 13.7   | 8.0    | ロクロナデ | ロクロナデ  | ヘア切リ   | ロクロナデ     | ロクロナデ | E-67 |
| 6   | 須恵器 | 环  | SD103B <sup>3-6</sup>  |          | 3.8    | 12.6   | 6.5    | ロクロナデ | ロクロナデ  | ヘア切リナデ | ロクロナデ     | ロクロナデ | E-68 |
| 7   | 須恵器 | 环  | SD103B <sup>3-7</sup>  |          | 3.9    | 13.7   | 7.6    | ロクロナデ | ロクロナデ  | 西丸ヘラ切り | ロクロナデ     | ロクロナデ | E-69 |
| 8   | 須恵器 | 环  | SD103B <sup>3-8</sup>  |          | 3.7    | 12.9   | 7.6    | ロクロナデ | ロクロナデ  | 西丸ヘラ切り | ロクロナデ     | ロクロナデ | E-70 |
| 9   | 須恵器 | 环  | SD103B <sup>3-9</sup>  |          |        |        |        | ロクロナデ | ロクロナデ  | ヘア切リナデ | ロクロナデ     | ロクロナデ | E-71 |
| 10  | 須恵器 | 环  | SD103B <sup>3-10</sup> |          | 3.5    | (14.2) | (9.0)  | ロクロナデ | ロクロナデ  | ヘア切リナデ | ロクロナデ     | ロクロナデ | E-72 |

第31図 SD 103溝出土遺物 (3)



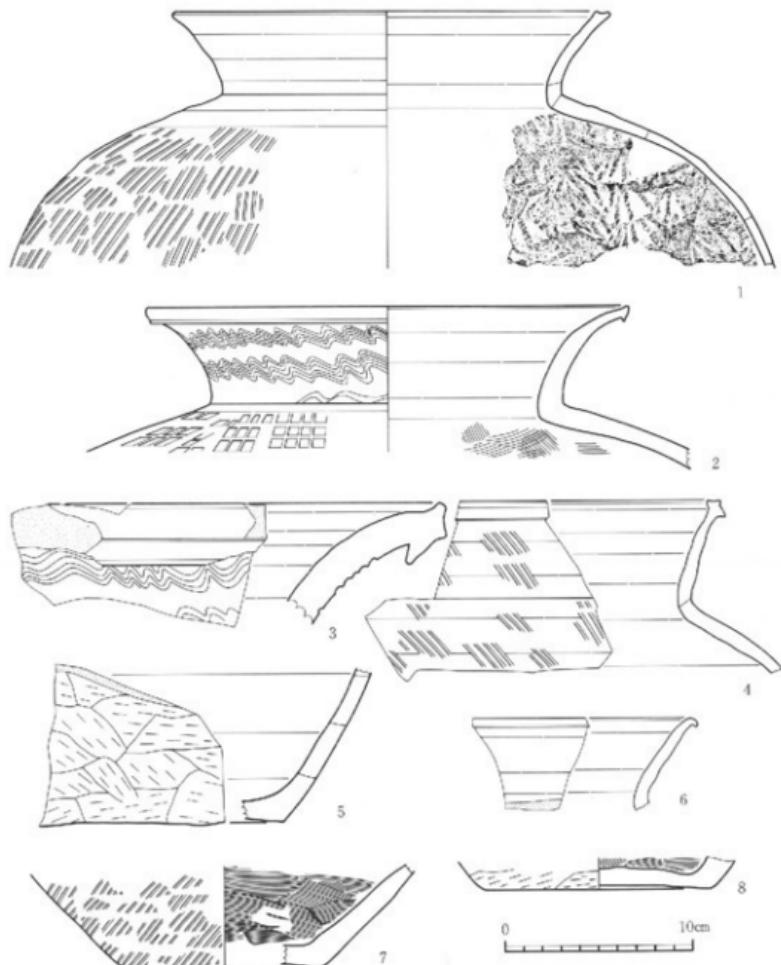
| No. | 種類  | 器種       | 出土<br>深度         | 測定<br>値 | 法<br>量 |       | 外<br>面 |       |        | 内<br>面 |       |       | 登録<br>No. |
|-----|-----|----------|------------------|---------|--------|-------|--------|-------|--------|--------|-------|-------|-----------|
|     |     |          |                  |         | 器高     | 口径    | 底径     | 口縁部   | 体部     | 底部     | 口縁部   | 体部    | 底部        |
| 1   | 須恵器 | 碗 SD103B | W <sub>1</sub> F | 4.2     | (14.0) | 7.6   | ロクロナデ  | ロクロナデ | ヘラ切リ   | ロクロナデ  | ロクロナデ | ロクロナデ | E - 73    |
| 2   | 須恵器 | 碗 SD103B | W <sub>1</sub> F |         |        |       | ロクロナデ  |       |        | ロクロナデ  |       |       | E - 74    |
| 3   | 須恵器 | 碗 SD103B | W <sub>1</sub> F | 4.5     | 13.0   | 7.1   | ロクロナデ  | ロクロナデ | ヘラ切リ   | ロクロナデ  | ロクロナデ | ロクロナデ | E - 75    |
| 4   | 須恵器 | 碗 SD103B | W <sub>1</sub> F | 3.7     | 13.2   | 7.2   | ロクロナデ  | ロクロナデ | ヘラ切リ   | ロクロナデ  | ロクロナデ | ロクロナデ | E - 76    |
| 5   | 須恵器 | 碗 SD103B | W <sub>1</sub> F |         |        | 7.6   | ロクロナデ  | ロクロナデ | ヘラ切リ   | ロクロナデ  | ロクロナデ | ロクロナデ | E - 77    |
| 6   | 須恵器 | 碗 SD103B | W <sub>1</sub> F | 4.3     | (14.0) | 7.8   | ロクロナデ  | ロクロナデ | 山形へラ切リ | ロクロナデ  | ロクロナデ | ロクロナデ | E - 78    |
| 7   | 須恵器 | 碗 SD103B | W <sub>1</sub> F | 4.8     | (14.0) | 8.0   | ロクロナデ  | ロクロナデ | 山形へラ切リ | ロクロナデ  | ロクロナデ | ロクロナデ | E - 79    |
| 8   | 須恵器 | 碗 SD103B | W <sub>1</sub> F | 4.0     | 13.3   | 8.4   | ロクロナデ  | ロクロナデ | 山形へラ切リ | ロクロナデ  | ロクロナデ | ロクロナデ | E - 80    |
| 9   | 須恵器 | 碗 SD103B | W <sub>1</sub> F | 4.6     | (13.3) | 7.4   | ロクロナデ  | ロクロナデ | 静止系切リ  | ロクロナデ  | ロクロナデ | ロクロナデ | E - 81    |
| 10  | 須恵器 | 碗 SD103B | W <sub>1</sub> F | 4.4     | (13.4) | (7.0) | ロクロナデ  | ロクロナデ | 山形へラ切リ | ロクロナデ  | ロクロナデ | ロクロナデ | E - 82    |
| 11  | 須恵器 | 碗 SD103B | W <sub>1</sub> F | 4.7     | 14.2   | 7.8   | ロクロナデ  | ロクロナデ | 山形へラ切リ | ロクロナデ  | ロクロナデ | ロクロナデ | E - 83    |
| 12  | 須恵器 | 碗 SD103B | W <sub>1</sub> F |         |        | 13.2  | ロクロナデ  | ロクロナデ |        | ロクロナデ  | ロクロナデ |       | E - 84    |

第32図 S D103B溝出土遺物 (4)



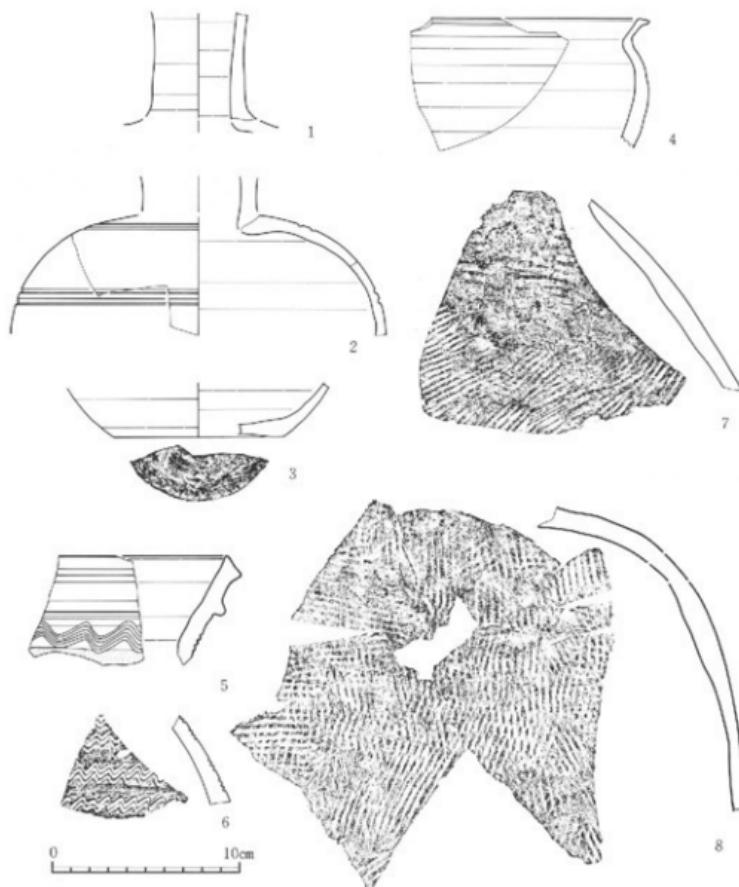
| No. | 種別  | 器種 | 出土<br>遺構 | 西暦  | 法<br>量 |        | 外<br>面 |                         | 内<br>面 |       | 登録番           |
|-----|-----|----|----------|-----|--------|--------|--------|-------------------------|--------|-------|---------------|
|     |     |    |          |     | 高      | 口径     | 底径     | 口縁溝                     | 体部     | 底部    |               |
| 1   | 須恵器 | 蓋  | SD103B   | 3.6 | 2.8    | 14.2   |        | ロクロナデ                   |        | ロクロナデ | ロクロナデ E - 85  |
| 2   | 須恵器 | 蓋  | SD103B   | 3.7 | 3.2    | (14.6) |        | ロクロナデ                   |        | ロクロナデ | ロクロナデ E - 86  |
| 3   | 須恵器 | 蓋  | SD103B   | 3.0 |        | (15.0) |        | ロクロナデ                   |        | ロクロナデ | ロクロナデ E - 87  |
| 4   | 須恵器 | 蓋  | SD103B   | 3.0 |        |        |        | ロクロナデ                   |        | ロクロナデ | ロクロナデ E - 88  |
| 5   | 須恵器 | 蓋  | SD103B   | 3.0 |        |        |        | ロクロナデ                   |        | ロクロナデ | ロクロナデ E - 89  |
| 6   | 須恵器 | 环  | SD103B   | 3.0 |        | (8.5)  |        | ロクロナデ<br>キセカエリ<br>キセカエリ | 静止糸切り  | ロクロナデ | ロクロナデ E - 90  |
| 7   | 須恵器 | 环  | SD103B   | 3.0 |        |        |        | ロクロナデ<br>キセカエリ<br>キセカエリ | 静止糸切り  | ロクロナデ | ロクロナデ E - 91  |
| 8   | 須恵器 | 环  | SD103B   | 3.0 |        |        |        | ロクロナデ<br>キセカエリ<br>キセカエリ | 静止糸切り  | ロクロナデ | ロクロナデ E - 92  |
| 9   | 須恵器 | 环  | SD103B   | 3.0 |        |        |        | ロクロナデ<br>キセカエリ<br>キセカエリ | 静止糸切り  | ロクロナデ | ロクロナデ E - 93  |
| 10  | 須恵器 | 环  | SD103B   | 3.0 |        |        |        | ロクロナデ<br>キセカエリ<br>キセカエリ | 静止糸切り  | ロクロナデ | ロクロナデ E - 94  |
| 11  | 須恵器 | 环  | SD103B   | 3.0 |        | 7.6    |        | ロクロナデ                   | 静止糸切り  | ロクロナデ | ロクロナデ E - 95  |
| 12  | 須恵器 | 环  | SD103B   | 3.0 |        | 6.1    |        | ロクロナデ                   | 静止糸切り  | ロクロナデ | ロクロナデ E - 96  |
| 13  | 須恵器 | 环  | SD103B   | 3.0 |        | (7.2)  |        | ロクロナデ                   | 静止糸切り  | ロクロナデ | ロクロナデ E - 97  |
| 14  | 須恵器 | 环  | SD103B   | 3.0 |        |        |        | ロクロナデ                   | 静止糸切り  | ロクロナデ | ロクロナデ E - 98  |
| 15  | 須恵器 | 环  | SD103B   | 3.0 |        |        |        | ロクロナデ                   | 静止糸切り  | ロクロナデ | ロクロナデ E - 99  |
| 16  | 須恵器 | 环  | SD103B   | 3.0 |        | 7.1    |        | ロクロナデ                   | 静止糸切り  | ロクロナデ | ロクロナデ E - 100 |
| 17  | 須恵器 | 环  | SD103B   | 3.0 |        | (7.0)  |        | ロクロナデ                   | 静止糸切り  | ロクロナデ | ロクロナデ E - 101 |

第33図 SD 103溝出土遺物 (5)



| 名   | 種別  | 器形 | 出土     | 法<br>面 | 外<br>面 | 内<br>面 | 登録号   |
|-----|-----|----|--------|--------|--------|--------|-------|
| No. |     |    | 場所     | 高さ     | 口径     | 底径     |       |
| 1   | 須恵器 | 甕  | SD103B | $H_3$  |        | ロクロナデ  | E-102 |
| 2   | 須恵器 | 甕  | SD103B | $H_3$  |        | ロクロナデ  | E-103 |
| 3   | 須恵器 | 甕  | SD103B | $H_3$  |        | ロクロナデ  | E-104 |
| 4   | 須恵器 | 甕  | SD103B | $H_3$  |        | ロクロナデ  | E-105 |
| 5   | 須恵器 | 甕  | SD103B | $H_3$  | 口テヌキ文  | ロクロナデ  | E-106 |
| 6   | 須恵器 | 甕  | SD103B | $H_3$  | 口テヌキ文  |        | E-107 |
| 7   | 須恵器 | 甕  | SD103B | $H_3$  | 平行印キ文  | 無文アメ   | E-108 |
| 8   | 須恵器 | 甕  | SD103B | $H_3$  | 平行印キ文  | ナ      | E-109 |

第34図 SD103B溝出土遺物（6）



| No. | 種別  | 器種 | 出土<br>遺構                           | 図面 | 法<br>量 |     |     | 外<br>面           |                  |     | 内<br>面 |     |     | 登録番<br>号 |
|-----|-----|----|------------------------------------|----|--------|-----|-----|------------------|------------------|-----|--------|-----|-----|----------|
|     |     |    |                                    |    | 器高     | 口径  | 底径  | 口縁部              | 体 部              | 底 部 | 口縁部    | 体 部 | 底 部 |          |
| 1   | 漆器器 | 壺  | SD103B <sup>m</sup> / <sup>f</sup> |    |        |     |     | ロクロナデ            |                  |     | ロクロナデ  |     |     | E-102    |
| 2   | 漆器器 | 壺  | SD103B <sup>m</sup> / <sup>f</sup> |    |        |     |     | ロクロナデ            |                  |     | ロクロナデ  |     |     | E-103    |
| 3   | 漆器器 | 壺  | SD103B <sup>m</sup> / <sup>f</sup> |    |        |     |     | ロクロナデ            | 波打たせ切口<br>波打たせ切口 |     | ロクロナデ  |     |     | E-104    |
| 4   | 漆器器 | 鉢  | SD103B <sup>m</sup> / <sup>f</sup> |    |        |     |     | ロクロナデ            |                  |     | ロクロナデ  |     |     | E-105    |
| 5   | 漆器器 | 小壺 | SD103B <sup>m</sup> / <sup>f</sup> |    | 1.2    | 1.2 | 1.2 | ロクロナデ            |                  |     | ロクロナデ  |     |     | E-106    |
| 6   | 漆器器 | 不明 | SD103B <sup>m</sup> / <sup>f</sup> |    |        |     |     | 波打たせ切口<br>波打たせ切口 |                  |     | 無      |     |     | E-107    |
| 7   | 漆器器 | 壺  | SD103B <sup>m</sup> / <sup>f</sup> |    |        |     |     | 平行凹キメ            |                  |     | 無      | アメ  |     | E-108    |
| 8   | 漆器器 | 壺  | SD103B <sup>m</sup> / <sup>f</sup> |    |        |     |     | 平行凹キメ            |                  |     | ナ      | デ   |     | E-109    |

第35図 SD103溝出土遺物 (7)



第36図 SD 103B 溝出土遺物 (8)

| No | 種別 | 器種 | 出土<br>遺物 | 測定<br>値   | 凹<br>面    | 凸<br>面 | 登録<br>番 |
|----|----|----|----------|-----------|-----------|--------|---------|
| 1  | 瓦  | 平瓦 | SD103B   | 布目・ナデ・ケズリ | 輪印キメ・同型台形 | G - 2  |         |
| 2  | 瓦  | 丸瓦 | SD103B   | 布目・ケズリ    | ロクロナデ     | F - 1  |         |
| 3  | 瓦  | 平瓦 | SD103B   | 布目・ナデ     | 調印キメ      | G - 3  |         |
| 4  | 瓦  | 平瓦 | SD103B   | 布目・ナデ・ケズリ | 輪印キメ・同型台形 | G - 4  |         |

## S D 104 溝

(確認面) 地山面で確認した。

(重複) S D 102溝と重複しており、これより新しい。

(方向) 調査区の北側を東西に走り、東端で、S D 103溝の北西隅からやや南寄りの位置に接続している。

全体に蛇行はしているが、大きくみて、方位は発掘基準線の東西方向にはば一致している。

(規模) 調査区内で検出された長さは、26.2 mである。西側方向は、さらに調査区外へ伸びている。上幅は、2.8 m ~ 3.2 m。

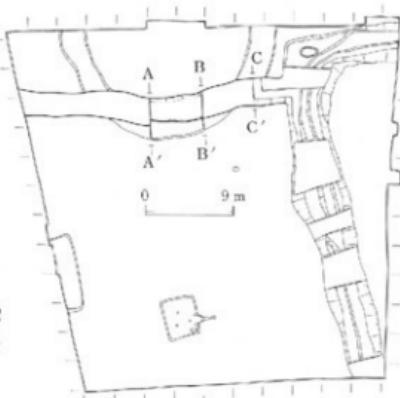
(堆積土) 自然堆積によって埋まっている。

S D 103B溝と一連の堆積状況を示しており、

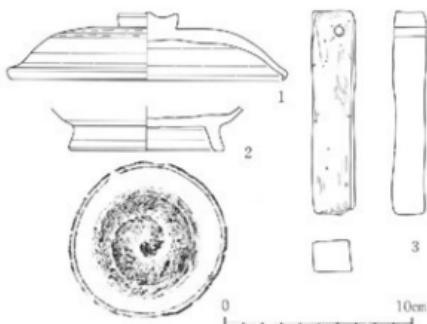
灰白色火山灰層が観察される。

この火山灰層の下層の堆積土は、南側から流入した上層の色調が、全体的に暗い傾向にある。

(底面・壁) 底面は、凹凸が無く、平坦である。また、壁は丸味を帯びて、ゆるやかに立ち上がっていいる。



第37図 S D 104溝

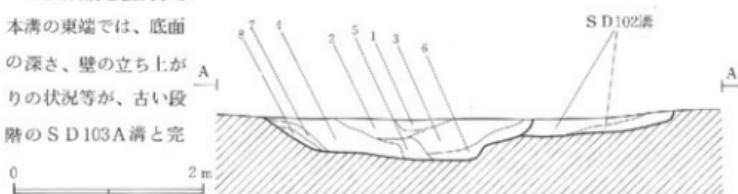


| No. | 種別  | 器種 | 出土<br>遺構      | 神高<br>$m^2/ft$ | 法<br>量 | 外<br>部         | 内<br>部         | 登録<br>No. |
|-----|-----|----|---------------|----------------|--------|----------------|----------------|-----------|
| 1   | 須恵器 | 壺  | SD 104<br>A'右 | 3.8            | 15.0   | ロクロナデ<br>ロクロナデ | ロクロナデ<br>ロクロナデ | E-118     |
| 2   | 須恵器 | 壺  | SD 104<br>A'右 |                | 8.4    | ロクロナデ<br>ロクロナデ | ロクロナデ<br>ロクロナデ | E-119     |
| 3   | 軽石  |    | SD 104<br>A'右 |                |        | 壺<br>壺         | 壺<br>壺         | K-1       |

第38図 S D 104溝出土遺物

S D 103溝と接続する

本溝の東端では、底面の深さ、壁の立ち上がりの状況等が、古い段階の S D 103A溝と完

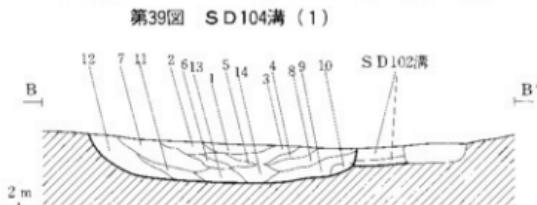


| 層位 | 標高 | 土 色               | 土 質 | 備考            |
|----|----|-------------------|-----|---------------|
| 1  | 1  | 黒 色 (10YR 2/1)    | シルト |               |
| 2  | 2  | 灰 白 色 (10YR 8/1)  | 火山灰 | やわらかく、しまりがない。 |
| 3  | 3  | 黒 灰 色 (10YR 3/1)  | シルト | 灰白色火山灰層。      |
| 4  | 4  | 黒 灰 色 (10YR 3/1)  | シルト |               |
|    | 5  | にふく黄褐色 (10YR 4/3) | シルト |               |
|    | 6  | 暗 灰 色 (10YR 3/2)  | シルト |               |
|    | 7  | 黒 灰 色 (10YR 3/2)  | シルト |               |
|    | 8  | 暗 灰 色 (10YR 3/3)  | シルト |               |
| 4  | 9  | 暗 灰 色 (10YR 3/3)  | シルト |               |
|    | 10 | にふく黄褐色 (10YR 4/3) | シルト |               |
|    | 11 | 黒 灰 色 (10YR 3/2)  | シルト |               |
|    | 12 | にふく黄褐色 (10YR 5/4) | シルト |               |
|    | 13 | にふく黄褐色 (10YR 4/3) | シルト |               |

全に一致している。ま

た、両溝の全体をみて  
も、底面と壁の状況に  
は、大きな違いは認め  
られず、ほぼ同じ様相

0



第39図 SD 104溝 (1)

| 層位 | 標高 | 土 色              | 土 質 | 備考                 |
|----|----|------------------|-----|--------------------|
| 1  | 1  | 黒 灰 色 (10YR 3/1) | シルト | 上面に薄く灰白色火山灰が認められる。 |
| 2  | 2  | 黒 灰 色 (10YR 3/2) | シルト |                    |
| 3  | 3  | 黒 灰 色 (10YR 3/2) | シルト |                    |
| 4  | 4  | 黒 灰 色 (10YR 3/2) | シルト |                    |
| 5  | 5  | 暗 灰 色 (10YR 3/3) | シルト |                    |
| 6  | 6  | 黒 灰 色 (10YR 3/2) | シルト |                    |
| 7  | 7  | 暗 灰 色 (10YR 3/3) | シルト |                    |
| 8  | 8  | 暗 灰 色 (10YR 3/3) | シルト |                    |
| 9  | 9  | 黒 灰 色 (10YR 3/1) | シルト |                    |
| 10 | 10 | 暗 灰 色 (10YR 4/6) | シルト | 北側流入土の色調は、南側より明るい。 |
| 11 | 11 | 暗 灰 色 (10YR 4/2) | シルト |                    |
| 12 | 12 | 暗 灰 色 (10YR 3/4) | シルト |                    |
| 13 | 13 | 黒 灰 色 (10YR 3/2) | シルト |                    |
| 14 | 14 | 黒 灰 色 (10YR 3/2) | シルト |                    |

第40図 SD 104溝 (2)

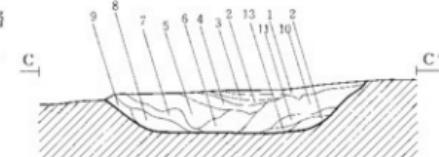
を示している。

〔出土遺物〕 灰白色火山灰層

の下層から、須恵器高台付壺・

蓋、砥石が出土した。

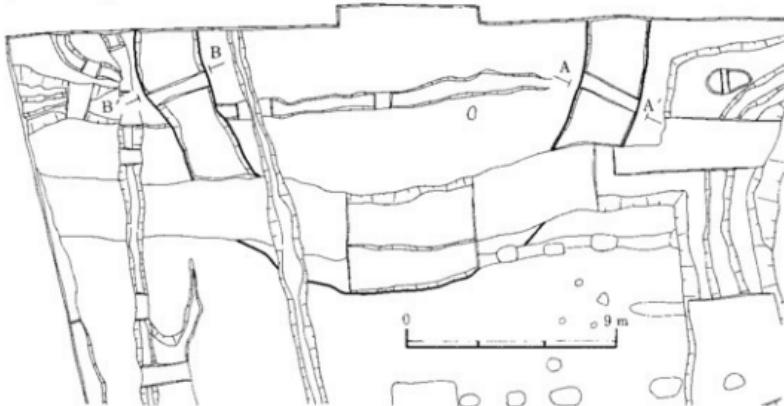
0



| 層位 | 標高 | 土 色              | 土 質 | 備考                 |
|----|----|------------------|-----|--------------------|
| 1  | 1  | 黒 灰 色 (7SYR 3/1) | シルト | 上面に薄く灰白色火山灰が認められる。 |
| 2  | 2  | 暗 灰 色 (10YR 3/3) | シルト |                    |
| 3  | 3  | 黒 灰 色 (10YR 3/2) | シルト |                    |
| 4  | 4  | 暗 灰 色 (10YR 3/3) | シルト |                    |
| 5  | 5  | 暗 灰 色 (10YR 3/3) | シルト |                    |
| 6  | 6  | 黒 灰 色 (10YR 3/2) | シルト |                    |
| 7  | 7  | 暗 灰 色 (10YR 3/3) | シルト |                    |
| 8  | 8  | 暗 灰 色 (10YR 3/2) | シルト | 流入土の色調は、南側が明るい。    |

第41図 SD 104溝 (3)

S D 102 溝

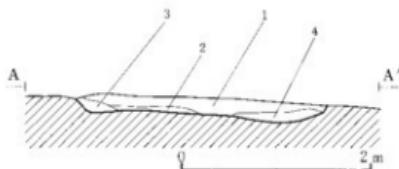


第42図 S D 102溝 (1)

(確認面) 地山面で確認した。

(重複) S D 104溝と重複しており、これより古い。

(位置・規模) 調査区の北側で、南半分が検出された。本遺溝は凹形周溝になると

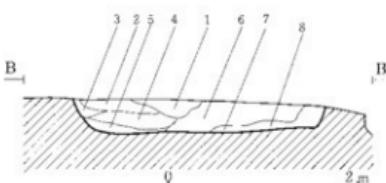


第43図 S D 102溝 (2)

思われ、径は、溝の外側でとれば22.5mになる。溝の幅は、2.8m ~ 3.2m。

(堆積土) 自然堆積によって埋まっている。

(底面・壁) 底面は比較的平坦であるが、



| 層位 順番 | 土 色             | 土 質 | 備                  | 考 |
|-------|-----------------|-----|--------------------|---|
| 1     | 1 黒褐色(10YR 3/1) | シルト | 炭化物を若干混じえる。しまりがない。 |   |
|       | 2 黄褐色(10YR 5/0) | シルト |                    |   |
| 2     | 3 黑褐色(10YR 4/0) | シルト | 汚れている。             |   |
|       | 4 黄褐色(10YR 5/6) | シルト | 汚れた地山粒を多量に混じえる。    |   |

第44図 S D 102溝 (3)

若干の凹凸がある。檻は、最も保存の良いところで40cm残っている。

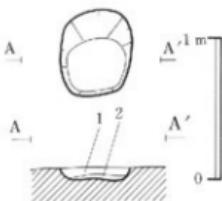
(出土遺物) 無し。

### S K 92 土壙

(確認面) 地山面で確認した。

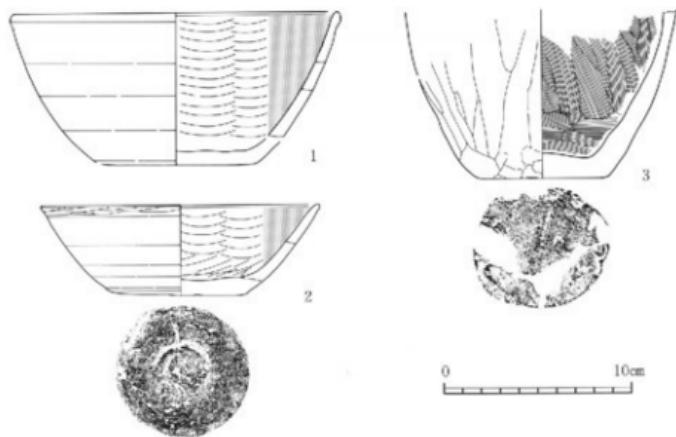
(平面形・規模) 東西にわずかに長い階円形を呈する。長軸60cm、短軸50cm。

(堆積土) 堆積土は、2層認められた。第1層は、黒褐色のシルトである。第2層は、にぶい赤褐色のシルトで、焼土が充



| 部位 | 測定 | 土色              | 土質  | 備考            |
|----|----|-----------------|-----|---------------|
| 1  | 1  | 黒褐色(75YR3/1)    | シルト |               |
| 2  | 2  | にぶい赤褐色(25YR5/4) | シルト | 燒土粒を多量に含んでいる。 |

第45図 S K 92 土壙



| No | 種別  | 古種 | 出土     | 層 | 底 面   |      |       | 外 面   |       |   | 内 面   |   |        | 登録No |
|----|-----|----|--------|---|-------|------|-------|-------|-------|---|---|---|--------|------|
|    |     |    |        |   | 高     | 口径   | 底径    | 口縁部   | 体 部   | 底 部   | 口縁部   | 体 部   | 底 部    |      |
| 1  | 土師壺 | 环  | S K 92 | 2 | (8.2) | 17.5 | (8.5) | ロクロナゲ | ロクロナゲ | 出<br>立<br>て<br>る<br>や<br>か<br>に<br>立<br>ち<br>上<br>が<br>っ<br>て<br>い<br>る | 出<br>立<br>て<br>る<br>や<br>か<br>に<br>立<br>ち<br>上<br>が<br>っ<br>て<br>い<br>る | 出<br>立<br>て<br>る<br>や<br>か<br>に<br>立<br>ち<br>上<br>が<br>っ<br>て<br>い<br>る | D - 19 |      |
| 2  | 土師器 | 环  | S K 92 | 2 | 4.9   | 14.9 | 7.1   | リガキ   | ロクロナゲ | 出<br>立<br>て<br>る<br>や<br>か<br>に<br>立<br>ち<br>上<br>が<br>っ<br>て<br>い<br>る | 出<br>立<br>て<br>る<br>や<br>か<br>に<br>立<br>ち<br>上<br>が<br>っ<br>て<br>い<br>る | 出<br>立<br>て<br>る<br>や<br>か<br>に<br>立<br>ち<br>上<br>が<br>っ<br>て<br>い<br>る | D - 20 |      |
| 3  | 土師器 | 壺  | S K 92 | 2 |       |      | 7.0   | 弱いケズナ | ナ     | 出<br>立<br>て<br>る<br>や<br>か<br>に<br>立<br>ち<br>上<br>が<br>っ<br>て<br>い<br>る | 出<br>立<br>て<br>る<br>や<br>か<br>に<br>立<br>ち<br>上<br>が<br>っ<br>て<br>い<br>る | 出<br>立<br>て<br>る<br>や<br>か<br>に<br>立<br>ち<br>上<br>が<br>っ<br>て<br>い<br>る | C - 55 |      |

第46図 S K 92 土壙出土遺物

満している。

(壁) 丸味を帯びてゆるやかに立ち上がっている。残存壁高は、10cm。

(底面) 周縁がやや凹んでいる。

(出土遺物) 第2層から、ロクロ使用の土師器壺2点（うち1点は底部を欠く）、ロクロ不使用の土師器壺1点（上半部を欠く）が出土した（第46図）。

第46図2の土師器壺の体部下端には、弱い砂粒の動きが観察されるが、これが手持ちヘラケズ

りによるものかどうかは、判然としない。

### S K 95 土壌

調査区南西隅で検出した。大半は調査区外にあり、規模・平面形は不明である。堆積土の状況から、この土壌は人為的に埋めもどされたと考えられる。縄文土器と土師器の小片が出土した。

### S K 109 土壌

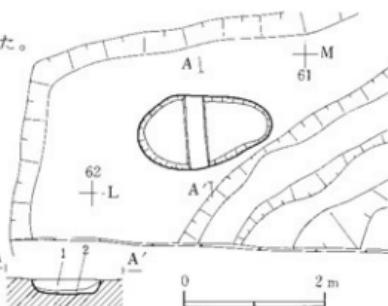
(確認面) S D 103溝北西隅の底面で確認した。

S D 103溝の底面からは、本土壠と後述する3基の土壠(S K 106~108)が検出されている。このうち全体の規模が明らかとなったのは、本土壠のみであり、その他の3基の土壠は断面で確認している。

(平面形・規模) 東西に長い階円形を呈する。規模は、長軸1.9m、短軸1.0m。

第10表 SK 95土壤出土遺物破片集計表

| 種別    | 器種 | 部位  | 器面   |   |      | 計 |
|-------|----|-----|------|---|------|---|
|       |    |     | 外    | 内 | 裏    |   |
| 土師器   | 甕  | 全体  | 不    | 明 | 一不   | 1 |
|       |    | 合   |      |   | 計    | 1 |
| 須恵器   | 杯  | 口縁部 | ロクロナ | テ | ロクロナ | 1 |
|       |    | 合   |      |   | 計    | 1 |
| 馬文(?) | 不明 | 全体  | 明    | 文 | 一不   | 1 |
|       |    | 合   |      |   | 計    | 1 |
|       |    | 總   |      |   | 計    | 3 |



第47図 SK 109土壌

(堆積土) 2層認められた。いずれも人為堆積土と考えられる。第1層は、地山ブロックを多量に混じえるにぶい黄褐色のシルトである。第2層は、暗褐色のシルトで、地山ブロックを中量混じえている。長さ20cmほどの炭化材が出土した。

(壁) ゆるやかに立ち上がっており、壁高は20cmある。

(底面) 比較的平坦であるが、中央がやや凹んでいる。

(出土遺物) 無し。

### S K 106~108 土壌

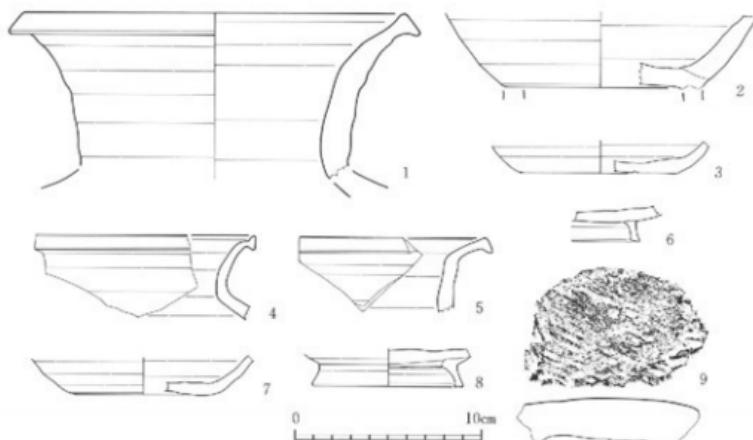
いずれもS D 103溝の底面で検出した(第23・27・29図)。これらの土壌は、すべて断面で確認したものであるため、平面形・規模については不明である。堆積土は、前述したSK 109土壌の特徴に近似しており、人為堆積土と考えられる。

### S K 110 土壌

S I 96住居跡を破壊している土壠である。北辺は、S I 96住居跡の北辺とはば一致している。平面形は方形かと思われるが、調査区外にひろがっているため、判然としない。

## 遺構外の出土遺物

表土剥離の際に須恵器を主体として若干の遺物が出土した（第48図）。



| No. | 種別  | 沿岸 | 山土  | 地盤 | 測定 | 法      | 量 | 外 面   |                |    | 内 面   |       |       | 登録 No. |
|-----|-----|----|-----|----|----|--------|---|-------|----------------|----|-------|-------|-------|--------|
|     |     |    |     |    |    |        |   | 高さ    | 口径             | 底径 | 口縁部   | 体部    | 底部    |        |
| 1   | 須恵器 | 壺  | 遺構外 |    |    | 24.0   |   |       |                |    | ロクロナデ |       |       | E-120  |
| 2   | 須恵器 | 壺  | 遺構外 |    |    | (10.0) |   | ロクロナデ | 切り口不規<br>正クロナデ |    |       | ロクロナデ | ロクロナデ | E-121  |
| 3   | 須恵器 | 壺  | 遺構外 |    |    | (8.2)  |   | ロクロナデ | 切り口不規<br>正クロナデ |    |       | ロクロナデ | ロクロナデ | E-122  |
| 4   | 須恵器 | 壺  | 遺構外 |    |    |        |   | ロクロナデ |                |    | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | E-123  |
| 5   | 須恵器 | 壺  | 遺構外 |    |    |        |   | ロクロナデ |                |    | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | E-124  |
| 6   | 須恵器 | 壺  | 遺構外 |    |    |        |   | ロクロナデ | 切り口不規<br>正クロナデ |    | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | E-125  |
| 7   | 須恵器 | 壺  | 遺構外 |    |    | (7.2)  |   | ロクロナデ | 切り口不規<br>正クロナデ |    | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | E-126  |
| 8   | 須恵器 | 壺  | 遺構外 |    |    | 8.0    |   | ロクロナデ | 切り口不規<br>正クロナデ |    | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | E-127  |
| 9   | 瓦   | 軒瓦 | 遺構外 |    |    |        |   | 平行印キメ |                |    |       |       |       | F-2    |

第48図 第7次調査遺構外出土遺物

## 第8次調査

所在地 城生野大堀

期間 昭和63年11月4日～11月24日

面積 142 m<sup>2</sup>

本調査は、城生野地区内の水道管理設工事に伴う立合調査である。調査の対象となったのは、台地北東部を東西に走る農道大堀線、ならびにこの大堀線と第5次調査を実施した農道儀平線とを結ぶ道路である。

この調査の結果、水道管理設溝断面から、堅穴住居跡3棟、多数のピット・溝等が検出された。このうち、調査区の東側2ヶ所で検出された大溝は、土層の堆積状況が一致しており、同一遺構と考えられた（第49図）が、この遺構の堆積土中には、10世紀前半に降下したとみられる灰白色火

山灰層（庄子・山田：1978.3）が厚く堆積していることから、古代のものであることは確実である。

ところで、本遺跡では、現在でも富野小学校の東側にまだ完全に埋まりきっていない大溝と、これに接して走る土塁の痕跡を観察することができる。これらは既に、発掘調査によって伊治城の北辺外郭施設であることが判明している（宮城県多賀城跡調査研究所：1978.3）が、今回検出された大溝は、このあたり一帯の地形からみると、これに連続する東辺外郭線である可能性がきわめて高い。

なお、この大堀線は、平成2年度に農道整備事業に伴って全面を発掘調査する予定となっているので、詳細な検討は、この調査時に加えることにしたい。



第49図 第8次調査区位置図

## 第9次調査

所在地 城生野要害

期間 平成元年2月6日～2月12日

面積 504m<sup>2</sup>

本調査は、遺跡北西部を走る農道別当線の整備事業に伴う立合調査である。このあたりの地形は、台地西端にある段丘崖へむかってゆるやかに傾斜しているが、東側は比較的平坦な地形となっており、大きな削平も受けていない。このことから、この農道の東半部には、堅穴住居跡をはじめとする多数の遺構の存在が予想された。そこで、農地整備課との協議において、工事にあたっては土盛りをし、遺構には影響を与えないようにすることをとり決めた。

その結果、調査の方法は立ち合いとし、平成元年2月6日から1週間にわたって実施した。発見遺構はない。



第50図 第9次調査区位置図

## VI 考 察

### 第5次調査

本調査は、農道儀平線の整備事業にもとづいて実施したものである。その結果、堅穴住居跡7棟、土壌2基、多数の溝・ピット等が検出された。ここでは、このうち精査を実施したS I 54住居跡、S K 89・90土壌について検討を行う。

#### S I 54住居跡

本住居跡では床面から6点の図示可能な土器が出土した（第8図）。

土師器甕は、いずれもロクロ不使用である。全体の器形のわかるものは無いが、口縁部下端には軽い段があり、底部には木葉痕が残る。このような特徴をもつ土師器甕は、国分寺下層式（氏家：1957.3）に一般的にみられる。

須恵器坏は、低平な器形でヘラ切り底である。類例としては、色麻町上新田遺跡第1号住居跡にみられ、表杉ノ入式初期の段階の土師器と共に伴っている。

また、須恵器高台付坏は、安定感のある比較的大形の深い坏部のものである。これと器形・法量の酷似したものは、本遺跡のS I 04住居跡から出土している（宮城県多賀城跡調査研究所：1978.3）。この住居跡は、火災によって焼失しているため、使用段階での土器の組成をそのままの状態で留めているが、共伴する土師器の組成をみると、ロクロ使用・不使用の坏・甕が混在しており、国分寺下層式終末から表杉ノ入初期にかけての様相を示している。

以上の点からみて、本住居跡出土の土器は、国分寺下層式から表杉ノ入式初期の幅のなかでとらえられる。したがって、住居跡の年代としては、8世紀末～9世紀初頭と理解される。

#### S K 89・90土壌

この2基の土壌は、整った長方形を呈しており、規模の点でも比較的近似している。

このうちのS K 90土壌では、第1層から炭や焼土に混じて細片となった骨片が出土したことから、土壤墓の可能性が考えられた。しかし、壁・底面に焼面が認められないこと、骨片の分布は第1層でも上部に限られていたことから、断面することはできなかった。

なお、S K 90土壌の第2層からは、国分寺下層式の特徴を示す土師器甕の破片が3点出土したが（第13図）、これらが遺構に直接伴うものであるかどうかは不明である。

## 第7次調査

本調査は国庫補助事業計画にもとづいて実施したもので、唐崎100、100-2、100-5を調査の対象とした。その結果、堅穴住居跡2棟、溝2条、土壙7基等が検出された。ここでは、S D 103・S D 104溝を中心に考察を加えたい。

### S I 71住居跡

本住居跡の年代決定資料には、支脚ならびに床面上から出土した土器がある。このうち図示できたものは、土師器椀・甕、須恵器壺・蓋・盤の12点である（第19図）。

まず、土師器椀（第19図4）についてみてみたい。これは、特異な器形ではあるが、外面の口縁部下端に軽い段があり、内・外面の器面調整がミガキである。したがって、氏家和典氏が設定した国分寺下層式（氏家：1957.3）のなかでとらえられる。

土師器甕のうち、図示できたものは、いずれもロクロ不使用のものである（第19図1～3・5）。しかし、支脚のオサエとして使用され、小破片のため図示できなかったものなかには、ロクロ使用で、平行叩き目の残るものが2点認められる（第7表）。こういった特徴を示す土師器甕の類例は、色麻町上新田遺跡から農富に出土しており、表杉ノ入式初期の段階に位置づけられている（小川井：1981.3）。

須恵器壺（第19図8・9・10）は、いずれもヘラ切り底のものである。このうち全体の器形のわかる第19図10は、器高がやや高く口縁・体部が直線的に立ち上がるもので、類例としては、志波蛇町糠塚遺跡第15号住居跡、色麻町上新田遺跡第1号住居跡、宮崎町早風遺跡第9・12号住居跡にみとめられる。これらは、糠塚遺跡で国分寺下層式の土師器、上新田・早風遺跡で表杉ノ入式初期の土師器とそれぞれ共伴している。

また、須恵器蓋（第19図6）は、前述した糠塚遺跡第15号住居跡から類例が出上している。

以上の点からみて、これらの土器は大まかに国分寺下層式～表杉ノ入式初期の幅のなかで把えることが可能である。したがって、住居跡の年代については、8世紀後半～9世紀初頭のなかで考えておきたい。

### S I 96住居跡

本住居跡からは出土遺物がまったく無く、また、その他の遺構との重複関係によってある程度の年代幅をおさえることもできない。したがって、年代は不明である。

### S K 92土壙

本土壙からは、焼土が充満し、底面を直接覆っている第2層から、土師器壺2点、甕1点が出

土した（第46図）。

焼土が、この土壤内で形成されたものか、あるいは他所から運び込まれたものかについては明らかでないが、ここでは、これらの土器を基本的に土壤に伴う遺物と考える。

土師器壺は、いずれもロクロ使用のものである。したがって、東北地方南部の土師器編年（氏家：1957.3）にあてはめると表杉ノ入式に該当し、まず大まかに平安時代という年代が与えられる。

表杉ノ入式の細かな変遷については、法量の変化、底部切り離し技法、再調整の種類と有無、共伴する須恵器・赤燒土器等の検討から、幾つかの試論が発表されているが、丹羽茂は、宮城県内のロクロ導入期の土師器壺の変遷を亘理町宮前遺跡第20号住居跡（8世紀末～9世紀初頭）→白石市青木遺跡第21号住居跡→蔵王町東山遺跡土器窯（9世紀中葉付近）と整理した（丹羽：1983.3）。

本土出土の土師器壺のうち全体の器形のわかる第46図2は、ヘラ切り底で、内面のミガキは井桁状である。ロクロ目はあまり明瞭ではなく、口径と底径の比は、1:0.48。全体に厚手のつくりであるが、とくに底部は分厚い。

そこでこれらの特徴を上記の土器群と比較してみると、口径と底径の比では、1:0.46前後に集中する東山遺跡土器窯に最も近い。しかし、ここでは、回転糸切り底でミガキが放射状のものが主体を占めており、この点では、本土出土のものと異なっている。

一方、口径と底径の比という点では異なるが、宮前遺跡第20号住居跡の土器群とは、ヘラ切り底で内面のミガキが井桁状であるということ、さらにはロクロ目が明瞭でなく、底部が分厚いという点で一致している。

このように、本土出土の土師器壺は、これら3つの土器群の諸特徴をかねそなえているといえる。したがって、本土出土の年代については、これらの年代幅である8世紀初頭～9世紀中葉のなかでとらえておきたい。

### S K 106～S K 109 土壙

これらの土壙は、いずれも前述したS D 103溝の底面で検出された。したがって、この溝より古いかあるいはこの溝に伴う土壙であると考えられる。そのいずれかについては、具体的な決め手に欠けているが、ここでは後者の可能性を指摘しておきたい。

### S D 103 溝

本溝は、堆積土中に10世紀前半に降下したとみられる灰白色火山灰（庄子・山田：1980.3）の厚い自然堆積層が認められることから、古代のものであることは確定である。

そこで、本溝から出土した遺物をこれまでの調査で発見された多数の堅穴住居跡出土の遺物と比較し、相互の関係を検討したい。比較にあたっては、改修後のS D 103B溝で、灰白色火山灰

層の下階から数量的にまとまって出土した須恵器坏（第32～33図、第8表）と堅穴住居跡出土の須恵器坏を対象とする。

ただし、溝から出土した遺物の場合、住居跡から出土した遺物のように、その場所で使用・廃棄されたものではなく、本米の使用の場から離れ、2次的に堆積したものである。しかも、そのなかには、溝の機能中に堆積したものだけではなく、溝の廃絶後に堆積したものも含まれていることが予想される。その意味では、これらは厳密な意味での遺構の年代を直接示すものとはいえない。比較をするにあたって、まずこのことを確認しておく。

なお、住居跡出土の資料は、床面・細部から出土したものを基本とし、参考として堆積土中から出土したものを加えた。

以上の点を踏まえ、①底部切り離し技法および再調整 ②口径と器高の比 ③口径と底径の比について検討し（第51～53図）、さらに個別的にも相互の比較を行った。その結果を要約すると、下記のようになる。

① S D 103B溝では、ヘラ切り・静止糸切り・回転糸切りの3種類の底部切り離し技法が混在する。このうち、ヘラ切り・静止糸切り底のものには、再調整として手持ちヘラケズりの加わるものがある。このなかで最も多いのは、ヘラ切り・無調整のもので、全体の70%を占める。

一方、住居跡床面・細部出土の須恵器坏は、すべてがヘラ切り底である。これらは、無調整のものと手持ちヘラケズりの加わるものとにわかれるが、主体を占めるのは、S D 103B溝と同じ無調整のもので全体の86%を占める。

② 口径と器高の比は、S D 103溝では28%～35%、住居跡床面・細部では25%～34%の範囲内ではほぼおさまっており、両者とも30%前後に集中する。この傾向は、住居跡の堆積土中から出土したものも同様である。

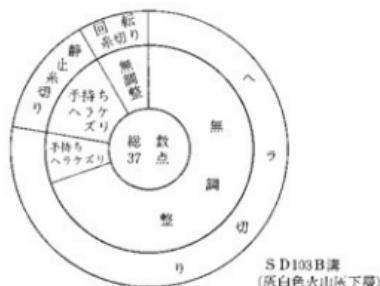
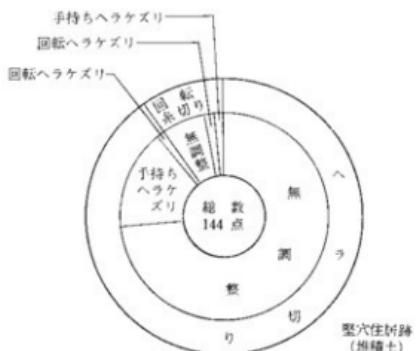
③ 口径と底径の比は、S D 103B溝では、51%～61%の範囲内におさまっており、55%前後に最も集中する。一方、住居跡床面・細部出土のものは、ややばらつきがあるが、大きくみれば、S D 103溝とはほぼ同じ、50%～61%の範囲内におさまっている。

④ S D 103B溝と住居跡床面・細部から出土したものを、個別に比較してみた結果、以下のものが類似していた。

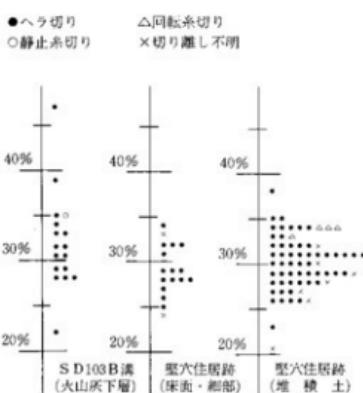
|           |            |   |
|-----------|------------|---|
| S D 103B溝 | (本書第31図5)  | S 131B住居跡掘え穴粘土帶<br>(宮城県多賀城跡調査研究所: 1980.3 第11図5) |
| S D 103B溝 | (本書第31図10) | S I 13住居跡カマド<br>(宮城県多賀城跡調査研究所: 1979.3 第11図5)    |
| S D 103B溝 | (本書第32図1)  | S I 13住居跡床面<br>(宮城県多賀城跡調査研究所: 1979.3 第12図1)     |
| S D 103B溝 | (本書第32図6)  | S I 13住居跡床面<br>(宮城県多賀城跡調査研究所: 1979.3 第12図2)     |
|           |            | S I 25住居跡床面<br>(宮城県多賀城跡調査研究所: 1979.3 第17図2)     |

以上の検討の結果から、両者の須恵器坏は、きわめて共通する内容をもつてていることがわかる。したがって、この区画溝は、本遺跡内に営まれたおよびただし数の堅穴住居跡とはほぼ同時期に存在していたと考えられる。(註1)

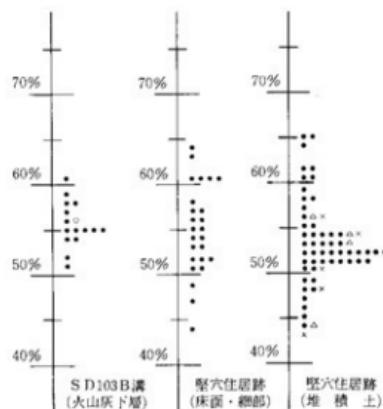
ところで、これらの堅穴住居跡は、既に述べているように、いずれも共伴する土師器をみるとロクロ口使用・不使



第51図 須恵器坏底部の状況



第52図 須恵器坏口径と器高の比〈口径：100〉



第53図 須恵器坏口径と底径の比〈口径：100〉

用の壺・甕が混在するのを基本としており、その年代は、国分寺下層式後半～表杉ノ入式初期の比較的短かい期間に集中している。この年代幅は、いうまでもなく、文献上に伊治城が記録されている期間（767～796）とほぼ一致しており、本遺跡が伊治城跡であるとする考え方の有力な根拠となっている（ただし、文献上では伊治城が796年以降にたどった消長について、何も記されてはいない）。

このようなことから、S D 103B溝の性格は、伊治城の内部を区画するためのものであったと結論づけることができよう。

また、改修される以前のS D 103A溝の段階も、本遺跡の遺構・遺物のあり方からみれば、やはり同様の性格と考えるのが妥当であろう。

#### S D 104 溝

本溝は、S D 103溝と同様に厚い灰白色火山灰の自然堆積層が認められ、しかも同溝と東端で接続していることから、伊治城内部の区画施設とみて間違いない。

ところで、本溝には掘り出しの痕跡がなく、1時期で廃絶したことが知られるが、2時期の変遷のあるS D 103溝との対応関係をみると、同溝の古い段階と底面・壁の状況が一致している。したがって、この溝は、S D 103A溝と同時に掘られた区画溝であるとみなされる。

ところが、ここで問題となることは、本溝の堆積土の状況は、新しい段階のS D 103B溝と一連のものであり、対応するはずのS D 103A溝と共に通する堆積土がまったく認められない。このことについては、改修されたS D 103B溝へ本溝の堆積土が流出してしまったため、その後は、ほぼ同じ状況下のもとで両溝の自然堆積が進行したためと推定される。

この遺構が、どの段階まで区画溝としての機能を果たしていたのかは明かでないが、改修・維持されたS D 103溝に較べれば、その役割は短かいものであったと考えられる。

#### S D 102 溝

本溝は、伊治城内部の区画施設であるS D 104溝に切られていることから、これより古いくことは、この重複関係によって明らかである。

この溝と同じ形態をとる円形の周溝は、本遺跡の南東1.5kmにある志波姫町鶴ノ丸遺跡で発見されている。この遺跡では、塙釜式土器第II B段階（丹羽：1985.3）の堅穴住居跡5棟・方形周溝墓3基と共に、円形周溝5基が確認された。報告では、その性格を方形周溝墓と同じく同時期の集落に伴う「周溝墓」と推定している（手塚：1981.9）。

本遺跡では、故松森明心氏が収集した遺物のなかに、塙釜式の焼成前底部穿孔壺があることから、「周溝墓もしくは小規模古墳の存在の可能性」が既に指摘されていた（丹羽：1985.3）。本溝は出土遺物が無く、性格をこの周溝墓と断定することはできないが、このような状況から、当

該遺構である可能性は高い。

なお、周溝墓は群集する傾向が強いので、今後の調査においても当該遺構の検出には、強い注意を払っておきたい。

註1)：本溝にみられる静止糸切り底で再調整の加わる須恵器坏(第32図9、第33図6・7・8・10)は、従来、

多賀城創建期の瓦を焼成した色麻町日の出山窯跡群A地点の年代觀から、8世紀前半のものとされてきた。しかしながら、最近、松山町次橋窯跡(東北学院大学考古学研究部：1984.3)や利府町硯沢窯跡(宮城県教育委員会：1985.3)で、回転糸切り底とともに併焼される例が確認され、この種の須恵器坏が、8世紀半ばまでは確実に存在することが明らかとなっている。一方、本遺跡では、これよりさらに年代の下降する8世紀末～9世紀初頭に位置づけられるS I 04住居跡(宮城県多賀城跡調査研究所：1978.3)とS I 91住居跡(本書)で、カマド内堆積土から静止糸切り底の高台付塊が出土している。これらは、床面からの出土ではないが、住居跡の年代からは大きくかけ離れたものではないと思われる。

さて、問題となる5点の坏のうち、全体の器形のわかる第32図9は、器形的には上記の3窯跡のものとは大きく異なっており、むしろ、本遺跡に一般的にみられるヘラ切り底の坏に近い。

したがって、これらの静止糸切り底の須恵器坏は、伊治城にともなうものと考えておきたい。

## VII まとめ

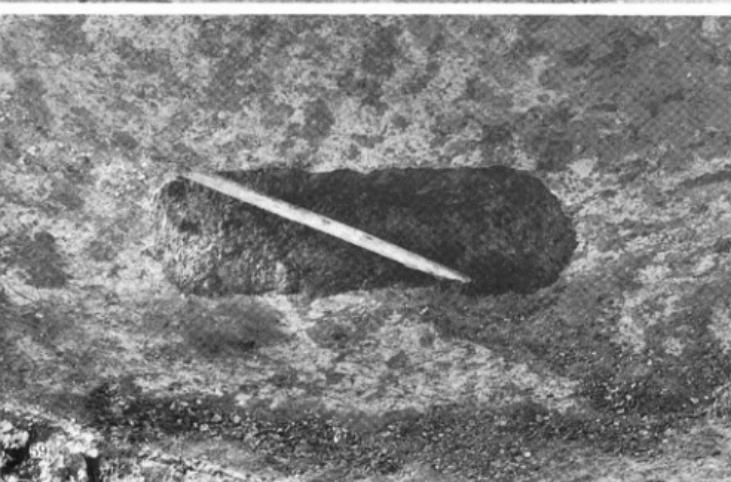
本書に収録した各調査の成果を要約すると、下記のようになる。

- ① 第5次調査は、遺跡中央から東へのびる農道儀平線を対象として実施した。その結果、堅穴住居跡7棟が発見され、この一帯にも堅穴住居跡の分布がひろがることが明らかとなった。
- ② 第7次調査は、遺跡中央からやや南寄りの位置に調査区を設定した。その結果、城柵内部の区画施設と考えられる溝2条が発見された。この2条の溝は、今後、伊治城の構造を知る上での具体的な手がかりになると思われる。
- ③ 第8次調査は、遺跡北寄りを東西に走る農道大堀線を対象として実施した。水道管埋設工事に伴う立合調査という限られたものではあったが、道路末端付近で、東辺外郭線を構成する大溝とみられる遺構が検出された。
- ④ 第9次調査は、遺跡西部を東西に走る農道別当線の整備事業に伴う立合調査である。発見遺構はない。

## 参考・引用文献

- 加藤・伊藤（1955.3）「宮城県登米郡新田村字対島塹穴住居跡群」『登米郡新田村史』
- 氏家 和典（1957.3）「東北土器の型式分類とその編年」『歴史』第14輯 東北史学会
- 氏家 和典（1961.3）「土器」『陸奥国分寺跡発掘調査報告書』宮城県教育委員会
- 小井川・高橋（1977.12）「宮城県対島遺跡出土の土器」『宮城史学』第5号
- 宮城県多賀城跡調査研究所（1978.3）「伊治城跡I」多賀城闇連遺跡発掘調査報告書第3冊 宮城県多賀城跡調査研究所
- 小井川・手塚（1978.3）「糠塚遺跡」『宮城県文化財発掘調査報告書』宮城県文化財報告書第53集 宮城県教育委員会
- 宮城県多賀城跡調査研究所（1979.3）「伊治城跡II」多賀城闇連遺跡発掘調査報告書4回 宮城県多賀城跡調査研究所
- 小川 淳一（1980.3）「青木遺跡」『東北自動車道遺跡調査報告書IV』宮城県文化財報告書第71集 宮城県教育委員会
- 山田・庄子（1980.3）「宮城県に分布する灰白色火山灰について」『宮城県多賀城跡調査研究所年報1979 昭和54年度発掘調査概報』宮城県多賀城跡調査研究所
- 宮城県多賀城跡調査研究所（1980.3）「伊治城跡III」多賀城闇連遺跡発掘調査報告書第5冊 宮城県多賀城跡調査研究所
- 小井川和夫（1981.3）「上新田遺跡」「長者原貝塚」「上新田遺跡」宮城県文化財調査報告書第78集 宮城県教育委員会
- 手塚 均（1981.3）「鶴ノ丸遺跡」「東北自動車道遺跡調査報告書V」宮城県文化財調査報告書第81集 宮城県教育委員会
- 丹羽・阿部・小野寺（1981.3）「清水遺跡」「東北新幹線関係遺跡調査報告書V」宮城県文化財調査報告書第77集 宮城県教育委員会
- 森 貢喜（1980.3）「早風遺跡発掘調査報告書」宮城県宮崎町文化財調査報告書第3集 宮崎町教育委員会
- 森 貢喜（1981.3）「水入遺跡発掘調査報告書」宮城県文化財調査報告書第84集 宮城県教育委員会
- 丹羽 茂（1983.3）「宮前遺跡」「朽木橋横穴古墳群・宮前遺跡」宮城県文化財調査報告書第96集 宮城県教育委員会
- 丹羽 茂（1985.3）「今熊野遺跡」「今熊野遺跡・一本杉遺跡・馬越石塚」宮城県文化財調査報告書第104集 宮城県教育委員会
- 高橋 守克（1987.3）「須恵糠塚遺跡」河南町文化財調査報告書第1集 河南町教育委員会

写 真 図 版





図版2 調査区東半遠景（南西から）



図版3 上：SD104溝（西から） 下：SD103・104溝（南東から）



図版 4

上：SD103B満  
(南から)

下：SD103・104満  
(南東から)





SD 103溝断面  
(西から)



SD 103溝断面  
(北東から)



SD 103溝断面  
(南から)

図 版 6

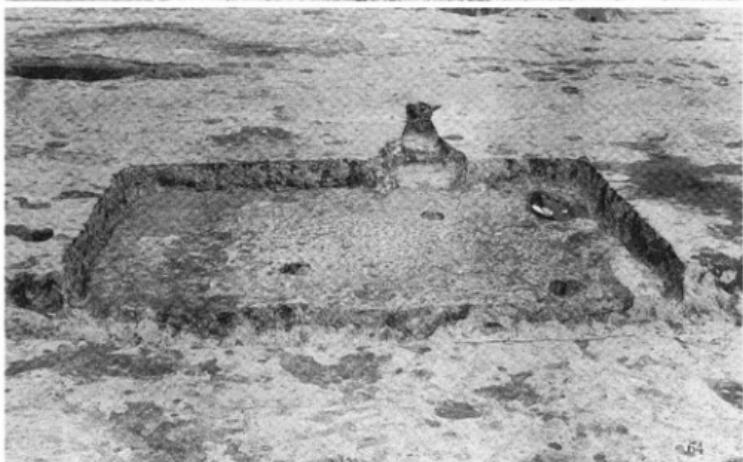
S D 103溝断面  
(南から)



S D 103溝断面  
(北から)



S I 91住居跡  
(西から)



## 付 編

### —鹿島壠改修以前の伊治城跡西辺外郭の状況—

本遺跡の北辺の一部では、現在でも外郭線の痕跡としてまだ完全に埋まりきっていない大溝とこれに接して走る土塁を観察することができる。しかし他辺では、外郭施設の痕跡はまったく認められず、どの位置をどのような構造で走っていたのか知ることができない。その原因としては、様々なものが考えられるが、西辺に関しては、昭和38年の鹿島壠の改修工事による破壊が大きく影響しているようである。

さて、ここに紹介する4枚の写真は、金野正氏（宮城県文化財保護地区指導員）が、昭和37年4月22日に、本遺跡の要害地区で撮影したものである。

この写真によれば、明らかに台地縁辺に沿って走る大溝と土塁が観察され、当時、この場所に北辺外郭と同じような状況で、西辺外郭の痕跡が残存していたことを知ることができる。金野氏の記憶によれば、「これらの写真を撮影した時は、鹿島壠の改修前で、周囲の林は切り払われ、大溝と土塁の痕跡がはっきりとわかった。また、「土塁と大溝の痕跡は、図版1上の写真を撮影した地点からはじまっており、南へむかってやや蛇行しながら、100m以上は続いていた。」という。

以上の事実から、本遺跡の西辺外郭線は、要害地区でみる限り、北辺と同じように土塁と大溝で構成されていたとみなされる。

なお、鹿島壠改修後の昭和53年に宮城県多賀城跡調査研究所は、奈良国立文化財研究所の協力を得て、本遺跡の同じ要害地区（第1図）で、西辺外郭の電気探査を実施した。この場所は、金野氏が先の図版1上の写真を撮影した地点から、南へ約200mの位置にある。しかし、その結果については、「丘陵末端部から約30mの地点で溝状の落ち込みが検出された。」ものの、「この溝は、南北方向の伸びが不明確で、外郭線大溝とは断定しかねた。」と、報告されている（宮城県多賀城跡調査研究所：1979.3）。

なお、末筆ながら、今回の写真的公表にあたり、特段の御配慮をいただいた金野正氏に厚く御礼申し上げます。



第1図 伊治城跡西辺外郭位置図



図版1 上・下 伊治城跡西辺外郭線の痕跡（要害地区）



図版2 上・下 伊治城跡西辺外郭線の痕跡（要害地区）

---

---

築館町文化財調査報告書 第2集

伊治城跡

—昭和63年度発掘調査概報—

印 刷 平成元年3月20日

發 行 平成元年3月31日

發行 築館町教育委員会

宮城県栗原郡築館町栗崎二丁目6-1

印 刷 小野寺印刷所

---

